

# 鈴鹿テニス協会30周年記念誌

## SUZUSA TENNIS ASSOCIATION

テニスを始める人に

テニスを始める人に

テニスの友

テニスの友



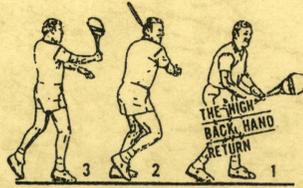
鈴鹿テニス協会誌

(昭和54年3月)



鈴鹿テニス協会誌

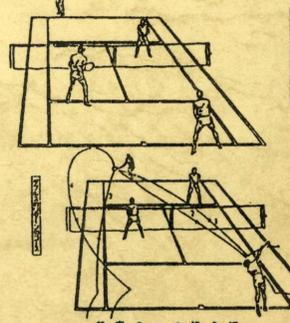
(昭和56年3月)



THE HIGH BACK-HAND RETURN

鈴鹿テニス協会誌

(昭和58年3月)



鈴鹿テニス協会誌

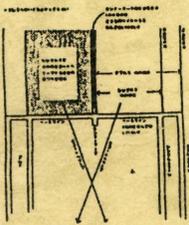
(昭和60年3月)

テニスの友

テニスの友

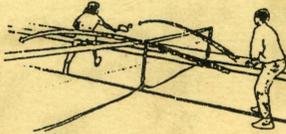
テニスの友

テニスの友



鈴鹿テニス協会誌

(昭和62年3月)



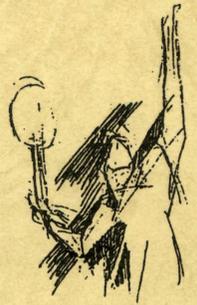
鈴鹿テニス協会誌

(1980年4月)



鈴鹿テニス協会誌

(1991年4月)



鈴鹿テニス協会誌

(1993年4月)

テニスの友

テニスの友



鈴鹿テニス協会誌

(1995年4月)



鈴鹿テニス協会誌

(1997年4月)

鈴鹿テニス協会  
1999年11月

# 球 趣

テニスを樂しみ健康にせよ

わらわ、交り、球に友情を温めよ

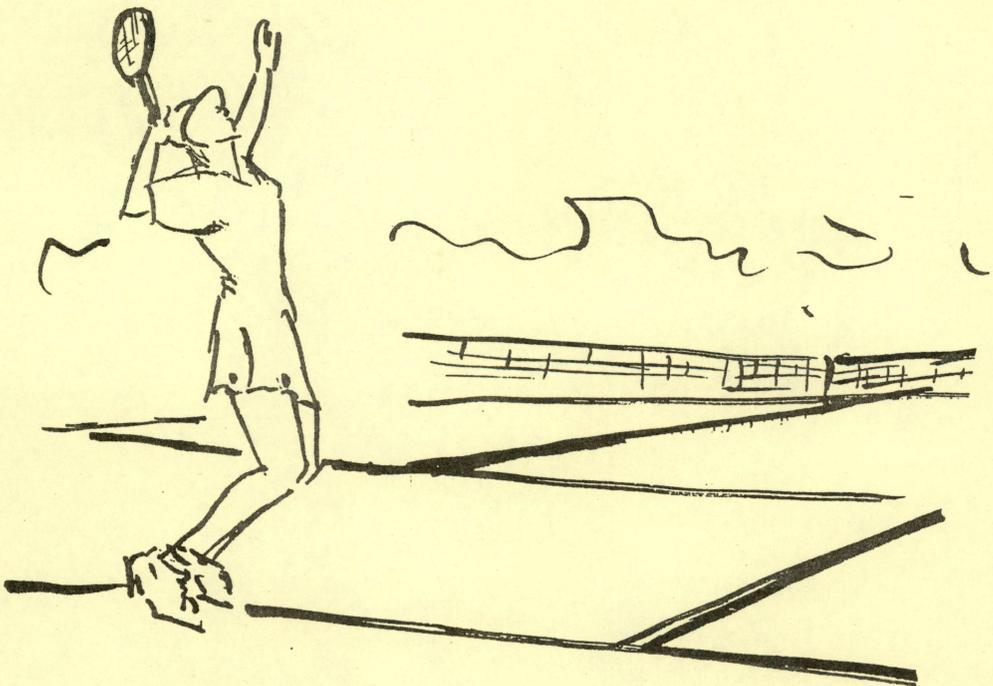
この一球を真剣に打て

フュアプレーを身に付けよ

フットマナーを身につくせよ

規則を守り、ソレもベストを尽くせ

立派なスポーツマンになれ

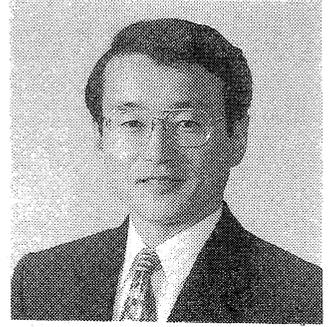


# 目 次

ご あ い さ つ

祝	鈴鹿テニス協会会長	中 川 正 春…	1
	辞		
	鈴 鹿 市 長	加 藤 栄…	2
	鈴鹿市体育協会会長	大 森 次 治…	3
	三重県テニス協会会長	平 岡 玄 次…	4
	三重県、四日市テニス協会副会長	小 沢 利 明…	5
	三重県テニス協会理事長	角 由 信…	6
	桑名テニス協会理事長	葛 谷 吉 弘…	7
鈴鹿テニス協会創立30周年にあたり			
	三重県テニス協会副会長	大 谷 光 司…	8
	鈴鹿テニス協会顧問		
	副 会 長	浜 辺 昭 雄…	9
	元 副 会 長	嶋 谷 二 郎…	10
	元 理 事 長	石 黒 勝 孝…	11
	理 事 長	伊 藤 三 雄…	12
協 会 の あ ゆ み .....			13
テ ニ ス エ ッ セ イ .....			15
鈴鹿テニス協会主催大会の歴史を追って .....			27
〈 大会結果記録 〉 .....			28
県民体育大会を振り返って .....			52
協 会 / ク ラ ブ 紹 介 .....			57
功 労 者 紹 介 .....			83
協会加盟団体名簿 .....			84
30周年記念事業 .....			87
編 集 後 記 .....			89

# ご 挨拶



鈴鹿テニス協会会長

中 川 正 春

鈴鹿テニス協会の設立30周年心からお祝い申し上げます。

この節目の大事な時期に会長職をおおせつかり、身の引き締まる思いでございます。この30年間、各役員、加盟団体の皆さんが協会のためにご努力を戴き、今や加盟団体42団体、会員数714名を越える大所帯となり、県下でも4番目の会員数を誇る組織に成長して参りました。

歴代協会を支えて来られた皆様に対しまして、改めて深く敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

今協会加盟団体の分布と勢力は大別して、一般職域男子、家庭婦人を中心とした女子、学校（大、高、中）のテニスクラブかと思えます。

この皆さんが作り上げたテニスの輪を日々の鍛練と親睦の心を通わせて更に確固たるものを築き上げて行かなくてはなりません。

とりわけ中学ジュニアテニス各学校に難しい状況をふまえて、協会が独自の養成教室に着手されました。推進の理事、コーチを皆で応援して成功させ、発展させたいものであります。

毎年実施を戴いていますテニスの友を中心とした教室は、好評のうちに大勢のテニス人口を輩出しています。地味なご努力に敬意を払いつつ、特に高齢者テニス教室の継続に感謝の声を聞くところでございます。

益々進む高齢化の中で、会員の方々、市民の方々がテニスを楽しみ、スポーツを友として親しんでいくことに何とも清涼な感じを覚えます。

どうか、これからも皆様方が明るくテニスを楽しんで下さる中で、協会を大いにもりたてて戴きたいと存じます。

私も転換期の会長をお引き受けして、更なる発展、隆盛に向け全力を挙げて邁進して参る所存でございます。

よろしくご協力をお願い申し上げご挨拶と致します。

# 祝 辞



鈴鹿市長 加藤 栄

このたび鈴鹿テニス協会が発足30周年を迎えられ、ここに記念誌を刊行されることは、まことに意義深く、関係者の方々のご尽力に感謝申し上げ、心よりお祝い申し上げます。

貴協会は高度成長期の昭和44年に、鈴鹿市におけるテニスの普及・発展、体力向上とスポーツ精神を通じて品性修養をはかることを目的として結成されました。そして鈴鹿選手権大会をはじめとする各種大会の開催や県大会の運営、全国大会への選手の派遣など広範な事業を実施し、鈴鹿市の学校体育・生涯スポーツの振興に多大な貢献を残していただいたことに対し敬意と感謝の念でいっぱいでございます。

とりわけ、平成9年、県営鈴鹿スポーツガーデンテニスコートのオープンを契機として本市のテニスの普及促進・競技力向上・主要大会誘致など目ざましい活動を繰り広げており貴協会に寄せる期待は、誠に大きなものがございます。

さて、余暇の増加や少子高齢化の進展など私たちを取り巻く社会環境が急激に変化する中で、スポーツは健康の保持増進や地域のコミュニティを形成していくために欠かせないものとして認識され、その役割も益々大きくなってきております。

そのような意味からも、さまざまな年齢の人がさまざまなスポーツを行い、また、スポーツを通じて地域住民の交流の場が作られる地域に密着した総合型の地域スポーツクラブの育成も大きな課題となっております。

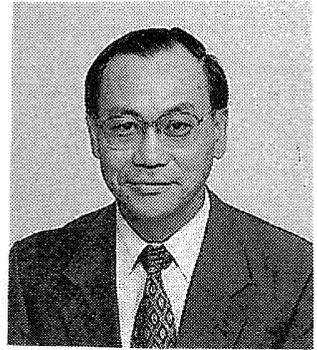
今後、時代の要請とともに、スポーツには多様な期待が一層寄せられることと思います。貴協会におかれましては、鈴鹿市におけるスポーツのさらなる発展とともに、世界を舞台に活躍できる21世紀を担うたくましい人材育成のためにもお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

最後に、30年の確かな歴史と伝統を回顧し、記念誌の刊行にご尽力されました関係の皆様方に深く敬意を表しますとともに、貴協会が21世紀に向かって益々充実・発展されることを祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

# お祝いの言葉

鈴鹿市体育協会会長

大 森 次 治



鈴鹿テニス協会が発足30周年を迎え、ここに記念誌が発行されますことを心よりお慶び申し上げます。

近年、急激な生活環境の変化に伴い、健康に対する市民の関心が高まると共に、体育・スポーツへの要望も多岐に渡り、実施人口も幼児から高齢者まで各年代に拡がってまいりました。

また、スポーツも多様な要望に対応するように、競技指向からレクリエーション性のあるものへと柔軟性をもち、まさにSport for allの実現へと発展を遂げてまいりました。

本来スポーツの普及・発展はこれを愛好し、実践する人々の自発的・自主的活動や努力に負うものでありますが、その意欲をくみとり活動を一層活発にするためには競技種目を統括する競技団体の役割は極めて重要なものとなってまいります。このような社会情勢のもと、鈴鹿テニス協会におかれましてもジュニアの育成、家庭婦人層の普及育成、学生・社会人の強化とまさに個人のライフステージやライフスタイルの要望に応じられるよう指導体制の整備、スポーツクラブの育成、指導者の充実と確保といった地道な活動が日々築き上げられた結果としてここに発足30周年を迎えられましたことは大変意義深いものがあり、今日までの歴代の役員の方のご尽力に対しまして、改めて敬意を表する次第でございます。

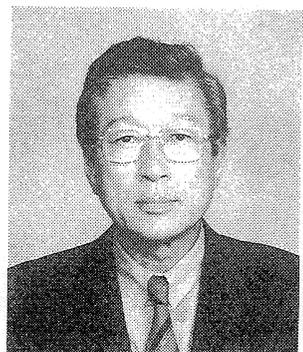
スポーツは人間が生活を営む上で、心身の健全な発達を図るために生涯を通じて、欠かすことのできない大きな役割を担っております。

30周年の節目を迎え、今後もテニスを通じて一人でも多くの方々が健やかに和やかで夢をもてるようなテニス環境の充実をご期待申し上げますと共に、貴協会の益々のご活躍とご発展を心から祈念申し上げ、お祝いのことばとさせていただきます。

# 祝 辞

三重県テニス協会会長

平 岡 玄 次



鈴鹿テニス協会発足30周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

30年の歴史には、幾多のご苦勞があったと伺っていますが、大谷光司会長のお人柄によるところでしょう。今では、三重県下でも有数の会員数を誇る協会に発展しました。勿論その陰に、理事長を始めとする役員皆さまのご努力があったことも見逃せません。

会長のお話では、今年からジュニアの育成に力を注がれるとのこと、早速伊藤三雄新理事長に引き継がれました。今、三重県には世界を目指しているジュニア選手畠中将人君がいますが、彼に続く第2、第3の選手が鈴鹿から出現することを大いに期待しています。鈴鹿市には21面の全天候型のテニスコートを始め多数のコートがあり、地の利もあります。新理事長の下、協会をあげてジュニアの発掘と育成に全力をあげられる方針には、三重県テニス協会としても、できる限り協力させていただきます。

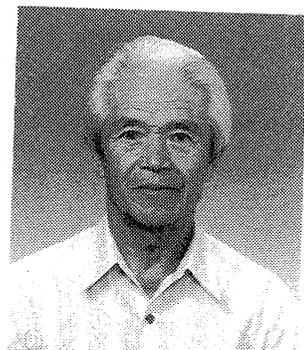
鈴鹿支部発展と充実のため、また世界に羽ばたく選手発掘のために、お手伝いさせていただく決意しております。

最後に、今日まで並々ならぬご努力のあった会長を始め、会員皆さまのご健勝と支部の更なる発展を祈念申し上げ、記念すべき30周年のご挨拶とさせていただきます。

# 草創のころを偲んで

三重県・四日市テニス協会副会長

小 沢 利 明



貴協会の創立30周年を心よりお祝い申し上げます。

30年前といえば、三重県高等学校体育連盟にテニス部が誕生して数年を経過し、漸く隆盛に活動を始めたところで、試合会場を県下各地に求めるようになった頃であります。当鈴鹿市では、体育館南の市営コート、青少年スポーツセンター、鈴鹿工専、鈴鹿高校などにずい分お世話になったことが思い出されます。なかでもとくに宿泊施設のあるスポーツセンターには、選手のレベルアップをはかる合宿、練習会やテニス教室等で大変お世話になりました。

貴協会の役員では、私のあと高体連の専門部長をやっていただいた、鈴鹿高校の石黒先生、県テニス協会の理事長・事務局を最近までやっておられた鈴鹿高専の浜辺先生にずい分ご厄介になりました。また四日市の鶉の森コートでじつに熱心に練習をされていた若かりし頃の人物がじつは後年の鈴鹿の北川選手であったことには感動したものです。それから中学校にテニス部を創り、のちの名選手を何人か育てられた大杉先生や、高校時代に活躍し、社会人となってからも一途に腕を磨いた伊藤（三）さん、またその他多くのテニスのために献身的に尽くす人たちの姿には頭の下がる思いがいたします。

世界のホンダ・スズカーキットを抱える鈴鹿市の前途は洋々たるものがあります。しかも、県下最大の規模を誇るスズカスポーツガーデンができました。21面のテニスコートはテニス愛好家の夢を満たしてあまりあるものがあります。大会の規模も市内のみならず他の郡市さらに東海、全国、世界へと拡大しています。どうか21世紀のリーダー役として、貴テニス協会が世界的な視野をもって、繁栄されますよう期待いたします。

最後に、四日市テニス協会は、貴市との選手交流も多く、貴協会には何かとご協力をいただいておりますが、今後ともお互いに友好を深め、ますますの充実発展を計られますことを希望して、祝辞といたします。

# 祝 辞

三重県テニス協会理事長

角 由 信



このたび鈴鹿テニス協会が発足以来 30 周年を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。

また、今日まで貴協会の発展に尽力された数多くの先輩方のご苦勞・ご功績に心から祝意と敬意を表します。

私が三重県テニス協会の運営に携わるようになってまだ 7 年目ですが、その間でも貴協会推薦の方々は中心となってその職責を果たされ、今日の県テニス協会の繁栄を築いてくれました。

大谷光司さんは副会長、浜辺昭雄さんは理事長・会計委員長、伊藤三雄さんは普及委員長、勝田成仁さんは広報担当等……。

加えて、「県営鈴鹿スポーツガーデン」が鈴鹿市に平成 9 年 7 月にオープンしました。全 21 面と素晴らしい施設で、県テニス協会主催大会のメインの活動場所となりました。必然的に地元である貴協会には様々な形で運営のご協力をいただいております。この場をお借りして改めて感謝の意を表したいと思います。

鈴鹿市は F 1 の都市、国際都市です。

テニスでは、地理的条件・愛好者の分布・施設等を勘案すれば、鈴鹿市は三重県の中心です。

鈴鹿テニス協会の活動は必然的に三重県テニス協会の活動に直結してきます。その繁栄は県協会の繁栄でもあります。ジュニアの指導・育成にも力を注いでいると伺っております。

近い将来、国際都市に相応しく鈴鹿市出身の選手がオリンピックやウィンブルドンで活躍するようなことになれば、県テニス協会の夢（＝三重県からウィンブルドン選手を！）が実現されることとなります。

貴協会の今後の益々のご活躍とご発展をお祈りして、創立 30 周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

# 30周年を祝して

桑名テニス協会理事長

葛谷 吉 弘



鈴鹿テニス協会創立30周年おめでとうございます。常に、三重県テニス協会のリーダー的立場として、テニス競技の普及に力を注がれ、この度30周年を迎えられたことは、大変おめでたいこととあります。

私ども桑名テニス協会も、皆様のご支援、ご協力のもと1996年に20周年を迎えさせていただきました。20周年の記念誌に際しましては、鈴鹿テニス協会発足当時からご尽力をいただきました浜辺昭雄元鈴鹿テニス協会理事長（当時三重県テニス協会理事長）より「三重県テニス協会の歩み」と題してお言葉を頂戴いたしました。

さて、私たち地域テニス協会の事務局をおあずかりするスタッフにとっては仕事の合間を縫っての大会運営やテニス教室の普及活動等、ボランティアであることは言うまでもありません。そして、それ以上にやはりテニスが好きで、テニスに魅了された方々の利害を超えての奉仕活動ではないかと思っています。しかし、私たちはプレーヤーがコートで精一杯の力が発揮できるよう運営のプロとしての自覚をもって公正さをモットーに会員やプレーヤーから信頼される事務局でありたいものです。

また、県営鈴鹿スポーツガーデンがオープンして3年目を迎えました。スポーツガーデンでは三重県テニス協会の大会を始め大きなイベントやテニスを愛好される方々が多数おとずれます。このように、活気あふれるテニス環境が整備されてきたことは、鈴鹿テニス協会にとっては大変喜ばしいことだと存じます。

最後になりましたが、伊藤三雄理事長のリーダーシップのもと、今後も益々鈴鹿テニス協会が発展されますことを祈念いたしまして30周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

# 30周年によせて

三重県テニス協会副会長  
鈴鹿テニス協会顧問 大谷光司



鈴鹿テニス協会が30周年という輝かしい歴史を刻みました。

みんなで心からおめでとうと喜び会いたいと思います。

記憶をたどれば確か昭和45年頃でしょうか。浜辺、石黒先生を中心に各関係各位のご努力で、鈴鹿テニス協会が設立され、初代会長には高専の木村和三郎先生が就任されました。

その後、先生がご高齢と遠距離からの通勤で大変だとの事で私が会長に推挙され、爾来20数年今年の春までいささか長すぎた会長に恥じらいながらお世話になり、総会を機に中川先生に会長をお願いしたところでございます。

思えばこの間、時代の変遷、激動の時代と言えたと思いますがテニス一筋に打ち込んで協会の運営をもりたてて来た感じで一杯でございます。

各役員の方々、加盟団体の皆様方の献身的で情熱的なご協力の賜物と改めて感謝を申し上げます。

今日迄永きにわたり続いています、テニスの友の発行と教室の取り組みでございますが、底辺の拡大こそ強い頂点につながるとして、各理事、コーチの皆さんに頑張ってもらいました。こんな中で、中学テニスは学校に定着が難しい現在、協会独自のジュニア養成の試みが実施されています。是非成功につなげ拡大して行きたいものであります。私は本来、技術的な強化普及といったテニスの面は各理事の皆さんにまかせ、自らは施設の整備充実に力点をおいて参りました。

今こそ笑い話のような公営のコートにクラブハウスは不要であるというような見解の違いを押し切って、後日評価されるといった皮肉な場面も経験して、先見性を発揮しつつリードして来た面もあります。結果として鈴鹿市では公的コート約60面、数では十分なところまで到達しました。

コートの数に見合う力量をつけるという課題をかかえ、更には要望の強い市営コートの早期面整備（人工芝化）とサンスポの芝の張替であります。建設費に対する利用人口は圧倒的に多いコートだけに実現に向け、最大の努力をしたいと思います。

30周年は協会にとっても一時代を画した転換期であります。多様化する時代と人のニーズはありましようとも、テニスはスポーツの本流を行く、誇りと熱情をたぎらせて競技テニスはあくまで強く、生涯スポーツはあくまで楽しくを目標に更なる発展を祈念申し上げたいと思います。

# 鈴鹿テニス協会発足30周年 にあたって

鈴鹿テニス協会副会長

浜 辺 昭 雄



今年の鈴鹿市選手権と市長杯争奪ダブルスは第30回大会である。昭和45年(1970)に、当時四日市市鶉の森公園コートの管理をされていた志波八郎さんから鈴鹿テニス協会を発足させるようにとお勧めと助言をいただき、東洋紡はじめいくつかの会社テニス部から鈴鹿テニス協会を発足させたのであった。鈴鹿市には公営コートが全くなかったことで、鈴鹿高専のコートや東洋紡鈴鹿工場のコートを大会会場としてとりあえず前記2大会をスタートさせた。発足から数年後、会長に大谷光司さん、理事長に石黒勝孝さん、事務局担当が浜辺昭雄となり、ジュニア大会や津テニス協会の生川介彦さんと協力してスタートさせた中勢選手権など大会を充実させてきた。昭和48年に鈴鹿青少年スポーツセンターにクレールコートが、昭和50年に鈴鹿市営コートが各6面設置され、これらのコートは天候に制約される大変使用しにくいコートであったが、ここを主会場として協会の発展を図れたことは幸いであった。また、昭和54年からは普及活動として初心者テニス教室を開催してきた。このテキストとして広報誌「テニスの友」を隔年発行して協会行事の記録も掲載してきた。この間10周年、20周年の節目があったが記念行事を行ってこなかった。今年から理事長を担当されている伊藤三雄さんのリーダーシップのもとで30周年記念行事が行われることになり、記念誌も発行されることは、大変喜ばしいことである。鈴鹿市内の公営コートも、一昨年県営鈴鹿スポーツガーデンに人工芝コート17面が完成し、市営コート12面、鈴鹿青少年スポーツセンター12面と大変恵まれた状況になったのであるが、鈴鹿青少年スポーツセンターは設置25年に当たる昨年で閉鎖され、スポーツガーデンでの大会開催は県大会などが優先されて予約が入りにくい状況に直面している。鈴鹿テニス協会主催大会の参加者も数年前から減少してきた。30周年の今年を契機にして参加者増をはかり、市営コートの人工芝コートへの早期改修を願っている。

# 鈴鹿テニス協会30周年で 思い出すこと

元副会長 嶋 谷 二 郎



私はテニスラケットをゴルフクラブに持ち替えて、はや12年が経過しました。あるゴルフコンペの帰り道、中西さんから鈴鹿テニス協会発足30周年なので何か書いてほしいと強引に頼まれ、断りきれず、そして大変お世話になっておきながら何のお返しもしないでいる事も反省しつつ引き受ける事にした次第です。

「浜辺先生、一度富士電機と交歓試合をやってくれませんか」このような電話をしたのは今から約30年程前のことだったと懐かしく思います。当時、鈴鹿市内で硬式テニスをやっていたのは、確か鈴鹿高専と実業団では東洋紡だけぐらいではなかったかと思います。私たち富士電機の硬式庭球部も部員は未だ少なく、対外試合は年に一回、社内対抗試合があった程度であり、練習メンバーはいつも同じ顔ぶれであり、今から思えば刺激の少ない練習を繰り返していたように思います。そんな事もあって、冒頭紹介したように交歓試合を計画したのでした。

鈴鹿テニス協会（当時は鈴鹿庭球協会だったと思います）が発足したのは丁度、その頃だったように思います。当時は、鈴鹿市では軟式テニスが盛んに行われ、県内でも強かったように記憶しています。硬式テニスはお隣の四日市市が全国的にも知れ渡っていたのに対して鈴鹿市は上述のようにテニス人口も少なく、硬式用のライン引きをした公営のコートさえなく、全く市民権のないスポーツだったと記憶しています。

協会発足当時の事を思い出すにつけ、どうしても頭の中に強く残っていて消えそうにないのは大谷会長のテニスに対する凄い愛着心だったと思います。ある理事会が終わった時、突然会長から「これから新しく出来るテニスコートの予定地を見に行こう」と提案がありまだ荒地だった今の市営コートの前にして鈴鹿市のテニスの将来について得々として語ってくれたことは今でも忘れられない程新鮮に感じました。そして又、忘れる事が出来ないのは浜辺先生の献身的といっても良い程熱心に事務局としてあるいは鈴鹿テニス協会生みの親として活動してくれた事です。石黒先生のご苦勞と共に鈴鹿テニス協会を確立して戴いたこれら3人の方々に協会創立30周年を機会に心から感謝の言葉を申し上げたいと思います。

私も、勤務の都合で今は大阪にいますが、いずれ鈴鹿に戻った時には、熟年テニスでもさせて戴きたいと思っています。よろしくお願いします。

鈴鹿テニス協会のご発展を期待しています。

# 鈴鹿テニス協会創立のころ

元理事長 石 黒 勝 孝



東京オリンピックの翌年（1966年、昭和40年）広島県福山市出身の小生は、開校3年目の鈴鹿高等学校教諭となり、同時にテニス部顧問となり、浜辺氏とともに懇意にさせて頂くようになった。

学校にコートがなく、旭ダウ（現旭化成）のコートをお借りしながらの日々が思い出されるが、1970年4月、浜辺氏と一緒に東洋紡鈴鹿工場を訪問し、実質的理事長であった藤牧義雄氏にお会いし、鈴鹿テニス協会（旧鈴鹿庭球協会であり、市がついていないのは、当初から広域協会を目指しており、市体育協会からわずかな補助金を頂くつど、問題にされた。この件に関しては、大谷会長の物心両面に渡る力添えが甚大であった）の誕生となった。

ちまたには、三重県開催のインターハイ（全国高等学校総合体育大会）、国体（国民体育大会）の声が日に日に喧騒を極めていた。

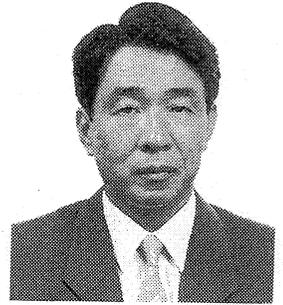
鈴鹿市営テニスコートが竣工したのも、丁度その頃であったが、試合のつど、石灰をとかしてシングルスラインを描き入れなければならず（シングルスラインが最初からない）シングルススティックも用意しておかなければならず、場合によっては、センターベルトとベルトフックも絶えず手持ちがないと不安な日々であった。雨が前日、前夜来、当日にあると、試合開催の中止、順延が頭痛の種となり、現方式の試合当日会場決定は、参加団体の理解があったればこそである。

出来ることならば、新聞紙上へ試合結果を掲載して欲しいと幾度となく交渉したが18時30分までに新聞社に届けなければならず、交通渋滞や他の記事との関係で、何度ボツにされたやら……。足で運んでいるうちに、電話が認められ、ファックスとなり、テニスもやっと地方の時代になったという感じがしており、鈴鹿テニス協会の無償の歩みが、ギブアンドテイク方式になり、感慨ひとしおである。

# 30周年を迎えて

鈴鹿テニス協会理事長

伊 藤 三 雄



このたび、鈴鹿テニス協会が発足され30周年を迎えることが出来たことは、関係機関のご理解と、協会を育て守り今日に至るまでりっぱに築き上げてこられた諸先輩理事、役員の方々のたえまないご尽力と協会会員の皆様のご協力の賜と深く感謝をするしだいです。

長年当協会をささえ発展的にリーダーシップをとってこられた浜辺昭雄氏（現副会長）より、今年度から理事長という大役を引き継ぐ事になりあらためて責任を感じると共に今後の鈴鹿のテニスをより発展させるために微力ではありますが努力を惜しまず活動を行いたいと思っております。

さて鈴鹿市は施設面では市営コート12面、県営鈴鹿ガーデンテニスコート屋外17面、屋内シェルターコート4面と充実され、競技大会は市主催で9大会と多く、協会内事業は年に春、秋テニス教室2回、普及テニス大会2回、普及講習会4回、選抜強化練習会、子供テニス教室、他市事業の協賛事業の応援など多彩な事業展開を着実に繰り広げて現在登録団体は42団体と膨らみました。

また三重県民体育大会では男女一般、壮年男子とも優勝経験をするなど実力の方も兼ね備わってきました。また近年では、鈴鹿より壮年男子選手が3年間連続して国体選手に選ばれるなどの活躍をしています。これも皆、協会会員皆様の応援と理事、役員の方々の強化、普及事業に対する熱意と努力の成果が実を結んだと喜んでいる次第です。

当面の課題としましては好評を得ていた子供テニス教室が一過性に終わらないようにバックアップし継続できるチームづくりを確立し（現在試行錯誤で開始中）、全国に通じるジュニア選手の育成をめざす事が一番だと思っています。

また、地域によってテニス人口に片寄りがあるようで町、学校区等地域単位でテニス人口を増加させるような行事を行い、活性化を図っていきたいと考えています。

今後も大会運営、強化、普及、ジュニア育成活動がより発展していくように、協会会員皆様のご意見ご指導を仰ぎながら、幅広い視野と観点で活動ができるように理事会のメンバー全員で協力をし、協会運営を進めていく所存であります。当テニス協会がさらに発展していきますよう、皆様のご支援を心からお願い申し上げます。

# 鈴鹿テニス協会のあゆみ

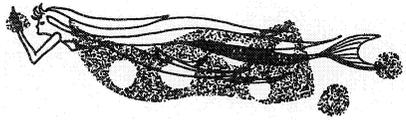
鈴鹿テニス協会副会長 浜 辺 昭 雄

今年、鈴鹿テニス協会が設立されて30周年ということで、伊藤三雄理事長の下で記念行事と記念誌の発行が計画されています。私もこの間に60歳を超えて最近ではトーナメントに出場しても1回戦負けし、また勝つことに執着しなくなりましたが、30年前は頂点を目指していました。昭和40年（1965）に鈴鹿高専の教員として鈴鹿市に住み着き、高専のテニス部部长になり、自分も部員も参加できる大会を探していました。三重県テニス協会も当時は黎明期で小谷明毅さんが理事長になって三重県テニス協会主催の大会を整備しつつあったという時期です。まとまった会場で大会を実施できる状態ではなく、四日市市内の会社コート为数カ所借りて実施していました。鈴鹿市にも鈴鹿テニス協会がありましたが大会は開催していませんでした。すでにこの当時から行われていた県民体育大会テニス競技の選手を選出するためにあった感じでした。鈴鹿市体育協会の加盟団体として補助金を年額3,000円支給されていた記録がありました。鈴鹿市にも公営コートはありませんでした。大会を行うとすれば多分旭化成のコート4面ということになったと思いますが、大会があったという記憶はありません。当時東洋紡績の人が協会の代表になっていたのですがある時転勤してしまって名目だけの協会が本当に名目になってしまいました。このころ別記の志波八郎さんから鈴鹿テニス協会設立のリーダーシップをとるようにと話がありました。鈴鹿高専の校内にテニスコートが4面整備されていたのも好都合で当時の高専校長を会長にして鈴鹿テニス協会の事実上の発足となりました。昭和45年（1970）のことで今年の30周年はこの年を起点にしています。鈴鹿高専のコートでスタートした鈴鹿市選手権、鈴鹿市長杯争奪大会が

30回大会になりました。鈴鹿市にも昭和48年には鈴鹿青少年スポーツセンターにクレートコートが6面、市内最初の公営コートとして設置され大会会場になりました。昭和50年には鈴鹿市営コート6面が設置され、この両コートを主会場にして参加者の増加とともに大会も、ジュニア種目、会長杯争奪団体戦（大谷会長杯）、津テニス協会との連合大会として発足させた中勢選手権、鈴鹿家庭婦人大会、鈴鹿に限定しない鈴鹿オープン選手権などが開催されるようになりました。また普及活動では、初心者講習を目的とするテニス教室を51年度から行い、毎年好評で現在も継続されています。このテニス教室の受講者用として54年に「テニスの友」を発行して、以降隔年発行で版を重ね、適宜大会記録や、県民体育大会での鈴鹿市選手の活躍記録などを収録してきました。ただ、昭和50年に設置された市営コートはソフトテニス協会が要望して設置されたコートであるとの同協会の言い分が強く、最初の改修まではシングルスをするためのラインが入りませんでした。このため大会ごとに運営者が石灰で必要なラインを描かねばならない手間を味わってきました。また雨天の翌日の大会ではコート管理職員と借用可否について言い争わなければならない体験を何十回とやってきました。市営コートは設置以来25年経過して、鈴鹿青少年スポーツセンターが閉鎖された現在、使用効率のよい人工芝コートに早く改修されるよう要望しています。鈴鹿テニス協会は今年から、25年以上にわたって協会の発展に尽くされた大谷光司会長から中川正春会長へと交代になりました。伊藤理事長はじめ理事スタッフも次の10年を的確にとらえ協会の発展を図っていくことに尽力しています。

会員のご協力をよろしくお願いいたします。

TENNIS ESSEY



テニス エッセイ



## テニスと仁義

ITO・TC 梶野玲子

あるコートで、ある人々のテニスの日々を見て実に深い感銘を覚え、そこに三つのポイントを発見した。

### その1：暗黙の了解

これはコートの取り方に表れている。受付開始まで窓口でじっと待つなど無駄な時間の使い方はしない。その方法は実に簡単な病院方式である。診察券の代わりにラケットもしくはバックを並べておくのである。早起きする必要があるが、一旦並べれば後はゆっくり食事しながら朝の連ドラ「すずらん」を見てから再びコートに行けば丁度よい時間になる。私が感動したのは、これからである。並んだラケットやバックに誰も不信感を抱かず、互いにそれぞれの持ち主とそれぞれの好みのコートを暗黙のうちに了解し合っているのである。決して割り込み、ましてや好きなコートの横取りはしない。これはまさしく仁義である。さらに感動的なのは、事情に通じていない一見（いちげん）さんに、受付時間まで待っても空コートはなく一刻も早く別なコートへ移動するのが賢明であることを教える。一見さんは人情あふれる常連さんの教えに感謝しつつ他のコートへ散っていくのである。私も少し前まではこの類であった。

ただ悲しいことに、あるコートではファックスでの受付が始まった。何と非人間的なことか。毎朝のコート取りに人々は顔を合わせ、交わす会話で元気を確認し合っているのである。義理・人情ましてや仁義はファックスには望めない。

### その2：スタミナの温存

たいていの場合、少しストロークとボレー等をしてからゲームをするのが一般的なパターンであるが、これらに決してスタミナは使わない。テニスはゲームを楽しむスポーツなのだ。そして、これからがすごいのである。ゲームは普通、いや必ず2個のボールでするものであるが、私が見た光景は違う。沢山の黄色のボールをネット際に置いておくのだ。これは決して練習ではなく、ジャッジにも結構シビアなゲームの時である。遠くへ転がったボールを拾いに行っているのはスタミナが減る。そんな馬鹿なことではない。すかさずネット際のボールを使う。ボールの番号などはどうでもよいのだ。2時間という限られた時間とスタミナとの絶妙なバランスの取り方である。

### その3：超合理性

決して無駄なコートを使い方はしない。少人数の時には、コート全面は使わない。縦半分のみである。お解りであろう。コート整備のことを考えてのことである。合理的テニスの究極の姿を、私はここに見る思いがした。

兎にも角にも、今日も青い空の下、仁義ある戦いが始まっている。私も早起きしてコート取りに行かねば…。ファックスなんかには負けてはいられない！

祝、鈴鹿テニス協会30周年。



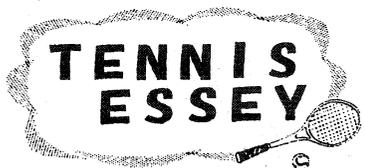
## テニスと私

プレイフェロー 石垣 愛

私は中学校の頃からテニスを始めました。中学校では硬式テニス部がなかったため、軟式テニス部に所属しました。高校から硬式テニスを始めました。軟式から硬式への切り換えにはとても苦労しました。特にバックハンドは打つ面が全く逆になるので、グリップを持ちかえるのに苦労しました。私達の高校はテニスコートに恵まれ、全部で10面のコートがあったので1年生の時からももちろんボール拾いはするのですが、コートで打つ回数も多かったです。練習はとても厳しかったです。晴れた日は早朝練習もあり、放課後は雨の日でも学校の廊下でトレーニングをしていました。夏休み、冬休み、春休みもほぼ毎日練習が続きました。毎年夏休みには体育館で3泊4日の合宿もありました。合宿では早朝マラソンや、夕食後9時くらいまでトレーニングをしていました。毎日、明日も厳しい練習があるとわかっているのに、夜中までみんなとおしゃべりして楽しくてなかなか寝れませんでした。1年を通して、唯一の休日はお盆とお正月でした。その他の日はほとんど学校に通っていました。もちろん友達と遊んだりすることはほとんどできなかったけれど、私はテニスをやっている自分が一番好きなのでクラブの仲間達と一生懸命練習して汗を流した事が一番の思い出です。

今は、毎週日曜に、月1回のコーチングを含め、プレイフェローというチームで練習しています。高校時代に比べて、練習量はだいぶ減りましたが練習内容はとても充実しています。高校時代の時はストローク中心の練習が多かったけれど、ストローク

だけでなく、さまざまなプレースタイルを身につけることができたと思います。プレイフェローに入って約2年が経ちますが、コーチやプレイフェローの方達に教えていただいたプレースタイルの他に目上の人に対する礼儀を覚えるなど、テニスは私にとってたいへんプラスになります。これからもテニスを通じて、いろいろな事を学んでいきたいと思っています。



## ジュニア指導に想いを馳せて

県営鈴鹿スポーツガーデンテニス場

大杉 順

いつも暑い夏が来ると、全日本ジュニア選手権大会、全日本中学生選手権大会に向けて無我夢中で取り組んでいた時のことを思い出しています。

思えば、ミズノの九鬼潤プロに手ほどきされた志波八郎氏（今は、その志波八郎氏を讃えて、志波杯が創設されている）のご指導をいただいたとき、ジュニア指導の重要性を訴えられた。その真摯な態度に感化されてジュニア指導にむけて夢中で取り組んでいった。

まだ鈴鹿において中学校での硬式テニスについて関心がなく、（今もあまり変わっていないのではと懸念しています）厳しい環境の中でのスタートでもあった。

男子40名、女子40名合わせて80名のクラブ員、練習するテニスコートはない、ボールはない…ないないづくしの中で、育てることの難しき、喜びを感じながらの毎日悪戦苦闘の連続であったことを、いまあらためて思い出します。そんなハングリー精神があったこそ、みんなで全国大会に向けてがんばれたのかもわかりません。とにかく皆で手作りのテニスコートづくりからはじめるのですから——。

テニスを教えていつも思うことに、どうやってテニスを好きにさせるかということにつきるかと思います。これは、すべての勉強にも通じることでしょう。テニスを好きにさせる方法というのは、テニスの面白さを教えることだと思います。

全日本ジュニア選手権大会、全日本中学生選手権大会に東海代表で出場することができたのも、そんな好きこそもの上手になれの結果であったと思います。

強化練習、暑い夏の合宿等、みんなテニスに情熱をかけ、楽しんで取りくみました。

そのかげには、全国レベルで活躍されている四日市工業高校のすばらしい実績が大きな励みとなっていました。

近年、三重県でも全日本ジュニア選手権大会で上位に入る優秀なジュニア選手が育っています。鈴鹿テニス協会 30 周年の節目を契機に、明日の鈴鹿テニス協会の発展のためにも、協会が一丸となって、ジュニア育成に取り組めたらと願っている今日の頃です。



## コートと友

米田幸夫

振り返ってみれば、今を去ること 20 数年前、初めて鈴鹿市のテニストーナメントに参加しました。場所は鈴鹿高専のクレイのテニスコートの 2 番。当時は、公共のコートは程んどなく、あっても 2 面程度であり、大会を開くとなると学校などを借りて行うのが一般的でした。高専の生徒達の日常の整備・しつけのよさを感じながら、プレイをした覚えがあります。その後も、何度か高専のコートで大会が開かれていました。

四日市には三滝コートがあり、鈴鹿にも市営コートがと願っていたところ、江島に市営コートができ、トーナメントはここを中心に実施されていくようになりました。前田さん・六谷さん・近藤さん・吉村さん・栗谷さん・伊藤さんはじめ多くのプレイヤーの汗や涙や喜びや悔しさがこのコートにはいっぱい詰まっていたような気がします。その後は、青少年スポーツセンターのクレイコート、ハードコートと鈴鹿市には公営のテニスコートが整備されていきました。それに伴って、大会も次第に充実してきました。その裏には、当時協会を支えていた浜辺・石黒の両氏をはじめ、多くの関係者の力添えがあったことと推察します。

10 数年前に鈴鹿を離れ、今は住居を桑名にし、2、3 年前から再びテニスの大会にも、無理しない程度に参加するようになりました。この 10 年での、県内のテニスの流れはほとんど知らずにいたわけですが、鈴鹿には江島の総合スポーツセンターや県のスポーツガーデンが完成し、三重県のテニスの中心都市として、活動しているこ

とは、鈴鹿にかつて住み、その黎明期を知っている者の1人として、喜びにたえません。協会をはじめテニス愛する多くの人の今後の活躍を願っています。



## テニスと〇〇さんの事

爽球会 北川俊秀

協会創立30周年記念誌に何か書け、と原稿用紙を送りつけられ少し困惑したが、締切までひと月以上あるから何んとかなるだろうと放っておいた。

ところが、締切10日程前から、仕事がすんだら今日こそは片付けようと思っていると残業、書ける筈もないのにウィンブルドンのビデオを見ながらやるものだから、煙草ばかりプカプカやって一向にはかどらない。

こんな具合に愚痴ばかり並べているうちに、この苦役を授けて下さった男をダシに駄文をモノにして了解へ、というけしからぬ妙案が浮かんだ。

初めて市選手権シングルスで入賞し、決勝で破れた相手、くしくも2週間程前の県選手権でも同スコア3-6で敗れた男が、私のシングルス熱の感染源、テニスウィルスの親玉である。

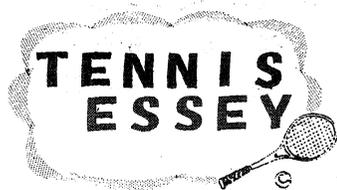
常時この男より私の方がうまいと自惚れていたもので、必ず勝てると信じて練習し、又冬は神戸の実家から定五郎橋までの往復を週3.4回走った。準備万端にも拘らず翌年の決勝もあと一步のタイブレークで敗れた。

以来この男は、面妖なサーブとスマッシュ何か変なフォアハンドを駆使して、鈴鹿を都合5度も連続で制覇するのである。

その頃も彼の安定したバックハンドと、ネットプレイのいやらしさ(後年、中勢選手権にてあのサーブで、サーブアンドボレイの術中にはまり0-6を喫した時は本当に口惜しかった)は素晴らしいものがあり、近年まで私には理解のかなわぬ代物であったテニス術、自分を制し、相手のその時の弱点を早く見抜き、相手にミスをさせる展開を幾つも繰り出す術を、当時から彼は熟知していたに相違ない。相変らず面妖なサーブを打っているが、彼の名誉の為につけ加えておかなければならないのは、彼は今でも鈴鹿で最も強い選手の一人であり又立派な指導者でもあるという事です。

さて、最後に私事で恐縮ですが、昨年大阪毎日3回戦、前日私は第2シードを倒す大番狂せを演じた時の事です。その日は第1セットを有利に進めていたのに相手に粘られタイブレイクの逆転をくらったのでセカンドは攻めまくってセットオールにした。ところが、連日の暑さもあり、かなり疲れてしまって闘志が湧いてこない。気晴しにコート外を眺めると、いる筈もない彼が見える。先に明石市で試合を終えた彼は、帰路応援に立寄ってくれたのである。

兵庫くんだりまで試合に行き苦しい時に、同郷のライバルの応援は勇気百倍である。ファイナルを制し翌日の準決勝と決勝に進んだのは勿論、その後、彼とテニス談義に花を咲かせて飲んだ甲子園のビールがうまかったのは言うまでもないでしょう。



## 鈴鹿高校テニス部

顧問 竹森裕孝

鈴鹿高校テニス部は、現在部員数43名（男子27名、女子16名）で、4面のクレ一コートで練習に励んでおります。

私が現場に顧問として復帰した4年前、男子がそこそこ頑張っていて、この生徒達と鈴鹿の黄金時代をつくりたいと思い、現在に至っています。それ以来、男子は団体で常にベスト4以上をキープし、今年は、インターハイ予選で3位、県高校選手権大会で準優勝、しかも決勝での四日市工業戦では久しぶりにダブルスで勝利することができました。

全国インターハイ団体3位の四日市工業を1つの目標に、男子部員一丸となってこれからも頑張ってくれることでしょう。

そんな中で、女子も強化をはじめて2年目を迎えております。上級生のいない若いチームですが、常勝宇治山田商業にあと一步のところまできています。

インターハイ予選、県高校選手権大会と、団体戦ではおしくも準優勝となってしまいました。山商の守りのテニスに対して、鈴鹿の攻撃的なテニスをつらぬき通したいと思っております。県内で勝利することはもちろんですが、全国で通用するテニスを目指して、ただ今特訓中です。

県内で活躍している小・中学生のジュニア選手達に選んでもらえる鈴鹿高校テニス部になれるよう頑張ってお力をしておりますので、いい選手がおりましたら、ぜひ本校テニス部に紹介していただきたいと思っております。

鈴鹿テニス協会の一員として本校テニス部も微力ながら協力させていただくと同時に今後の協会の発展をお祈り申し上げます。



## 私とテニス

鈴鹿国際大学短期大学部

梅原 頼子

テニスの後のビールは最高！こんなにビールのおいしいスポーツは、私の経験では他にない。テニスを始めて20年。ここ10年はビールのためにテニスをしているといっても過言ではない。何のためにテニスをしているのか？

そもそもテニスとは、コート中央にあるネットを狭み、ラケットとボールを規定の大きさと区画内に打ち合うスポーツである。その中でも、一般のレクリエーション的テニスはより健康に、より美しく、より楽しくと娯楽性が存在し、仕事、家事、勉強の疲れをいやし、元気を取り戻すために行われる。一方、競技的テニスでは、ラリー中の一本一本に相手の動作、コース、戦況を予知する能力が必要とされ、より高い目標、より高い技術、より高い成績と自己能力の可能性へ挑戦するために行われる。相手なくしてはテニスゲームは成立しないため、人との交流には大変役立ち、同じものを好きであるということでグループ、仲間意識が生まれる。見知らぬ人と知り合い、友達の間が広がる。

競技としてテニスをとらえていた10年以上前、自分の能力の向上を目的として県外へ試合に出場していた頃、新しい世界、新しい技術を求めていた。全日本選手権を目指していたあの頃がなつかしく、一番努力をしていたように思う。それから10年、テニスはストレス解消の一部であった。県内の試合に出場し、テニスに対して努力しているように見せることで自己満足していたような気がする。ここ最近、私の人とのつながりはテニスによるものが大半である事に気づいた。現在テニスをしているかいないかは関係なく、「大切にしたい人」の中で「テニス」という文字が入らない人は

数少ない。テニスをするという事は、人と会って、話すこと、そんな風に思う。何のためにテニスをしているのか？ それは、人とのつながりを持っていたいからなのではないだろうか。

鈴鹿テニス協会発足 30 周年、おめでとうございます。21 世紀に向け、協会の働き、会則等さらなる情報公開、開放により、一般テニス競技者への存在価値を高められることを希望するとともに、協会の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。



## 「スポーツ文化」

鈴鹿スポーツガーデン 豊田 敬一

「スポーツ」の語源は、スポルト（遊び）ということらしい。

すなわち、「楽しみ」「楽しむ」ということだろう。

その楽しみ方は、人間個々に実に千差万別である。

五輪メダリストも、市民ランナーもその根底にあるのは、スポーツが「楽しい」からであり、「楽しむ」ためにスポーツがあり、それは究極的な人間の本能でもある。

「スポーツ」、それは人間の感性に実に判りやすく伝わる。圧倒的なコミュニケーションの場でもある。そこには、言葉を必要としない表現の中で、最も魅力的な世界がある。言葉を必要とせず、その試合、プレーからは何か大切なすばらしいものが伝わってくる。例えば人間の生きている意味とか、その国・人の歴史とか、運命とか…実に素晴らしい空間だ。

さて、最近、自分自身、我が国のスポーツは文化だろうか、と考えることが何故が多い。

「文化とは、ある人にとって不要でも、ある人にとってはかけがえのないものであり、短期間のブームではなく、時代を超えて受け継がれるもの」であると定義づけしているスポーツ作家がいたが、私もまさに音楽も映画もそしてスポーツも文化だと思っている。

Jリーグが成功し、突然「スポーツは文化だ」などと言われ出したが、この言葉は

外国人によって明治の初めから言われていたらしい。

これがヨーロッパやアメリカの話であれば、私は何の迷いもなく、「スポーツは文化」だと言い切れるのだが、我が国ではその域には達していない。

第2次世界大戦の期間中、日本では「非常時につき」との理由でほとんどのスポーツが中止に追い込まれたが、ヨーロッパではあくまでスポーツを続けようとする動きがあり、ついには戦場にまでスポーツが持ち込まれた。ドイツ軍対連合軍捕虜のサッカーの試合が頻繁に実施されたことはよく知られた事実で、それが20年程前映画化され、私も映画館へ行った。彼らにとって、スポーツは非常時においても欠かせないものであり、50年経ち、21世紀を迎えようとする現在においても日本とヨーロッパの間に横たわる認識の差は、消えていないばかりか、むしろ広がっているように私には感じる。

ヨーロッパでは、樹木に囲まれ、緑の芝が多くあり、どこクラブにもクラブハウスがある。スポーツをする人もしない人もお茶やお酒を飲みながら語り合っている。クラブハウスには、宿泊施設、レクチャールーム、レストラン、バー、売店等クラブライフを楽しめるようになっている。スポーツには社交がかかせないものというのが常識で、社交とコミュニケーションを通じ、人々の交流が深まり、スポーツが社会に根づいている。

この緑の多い、クラブの多い代表的な国は、ドイツである。ご存知の方も多いと思うが、ドイツでは約2,660万人（全人口の1/3）の人々が、約85,500ヶ所のスポーツクラブのいずれかで活動している。このスポーツクラブのほとんどが多種目複合型のクラブであり、日本感覚でいうと各地域の郵便局単位で地域のスポーツクラブが設置されている。そこには、老若男女、健常者、身障者、エリート選手、初心者、サポーター等が同じクラブに所属し、スポーツを楽しんでいる。

Jリーグ・川淵チェアマンがよく言うJリーグの理念として、「地域に根ざしたスポーツ」をよく耳にするが、これは企業論理優先のプロ野球のコンセプトと全く違うところである。日本サッカーの基盤を築いた、D・M・クラマー氏の母国・西ドイツの限りなく緑の多い芝生が、チェアマンの思いを駆り立てたのだろう。

Jリーグが開幕した翌年だったか、同チェアマンの講演を聴いたことがある。

「ローマ五輪が終わった直後、我々日本代表は初めてヨーロッパ遠征を行い、デュイ  
スブルグのスポーツシュレに行った。芝生のグラウンド、二つの体育館、宿泊施設  
にレストラン、人工の湖まであるスポーツクラブであった。子供たちがサッカーをは  
じめ、いろいろなスポーツを楽しんでいた。その風景に相当なショックを受けた。そ  
の当時、我々日本サッカー代表が練習していたのは、石ころだらけの土のグラウンド  
で、その横で子供たちが野球をしていた。『このようなクラブをもっている国には、  
我々は100年たっても絶対勝てない』という強いショックを受けた」と話していた。

全日本サッカー代表でイタリアセリエAでプレーする中田選手のクラブ「ペルージ  
ャ」は、100年近い伝統がある。同セリエAのユベントスのクラブの創立は1897年、  
ACミランは1899年、イングランドのマンチェスター・ユナイテッドは1897年、ノ  
ッティンガム・フォレストに至っては創立なんと1865年で、その頃日本はまだ江戸  
末期だった。約100年もの歴史がある国にJリーグ発足後丸6年の国が勝つどころか  
1点奪うのも大変だろう。

我が国では、残念ながら、あまりにも長い間、学校・企業スポーツに依存しすぎて  
きたので、ヨーロッパにみる地域に根ざしたスポーツクラブの発想は生まれてこなか  
った。

この経済不況下、規制緩和・市場開放が進む中、金融機関の破綻や企業の徹底的な  
リストラ・合理化等、かつて我が国で起こり得なかった急激かつ構造的な社会変革は、  
企業スポーツを直撃した。特にエリートスポーツクラブを有する企業は、次々と廃部  
を余儀なくされ、景気に左右される企業スポーツを、本当の意味で、「スポーツ文化」  
として位置づけるには、限界がある。

一方、学校スポーツも少子化の影響や中学校・高校の部活及び大学の体育会系の運  
動クラブ員が減っている。いわゆる最近の若者の縦社会的な競技スポーツになじめな  
い、といった側面もあり、この国独自の学校・企業スポーツが過度期を迎えている感  
がある。

このような背景をもとに、やっと我が国でもここ2～3年前から、遅まきながら行  
政ベースでヨーロッパのスポーツクラブをモデルに、いわゆる中学校区をひとつの核  
にした総合型地域スポーツクラブを全国で10,000ヶ所目標に設置しようとする取り組

みが始まったばかりだ。

一体、我が国のスポーツは文化として、今後どう根づいていくのか。

繰り返し書いてきたように、我が国のスポーツはまだ文化と呼べるレベルまで達していない。

我が国とヨーロッパとのスポーツに対する価値観は、根本的に違う。

向こうの人々は、スポーツを何よりも愛し、大切にし、スポーツをする人、見る人の中に本当にスポーツを共有し、スポーツを活力にしている人が多い。

それが、スポーツ文化として歴史を刻み、伝統となっていく……。

そんなスポーツ文化を肌で感じるために、今秋、ヨーロッパ（イギリス、ギリシャ、イタリア）を見て回ることにした。次回、何かの機会に「スポーツ事情」を寄稿できたらと思う。

長々と個人の思いを書いたが、スポーツが何より自由で、楽しくあってほしい。

スポーツは、常に政治・経済の影響を受けやすいが、人類共通の文化でもある。

私自身、スポーツと深く関わってきたせいか、いまだにスポーツ以上の爽快感を知らない。

# 大会結果記録

～大会の歴史を追って～

# 鈴鹿テニス協会主催大会の歴史を追って

鈴鹿市民独自のテニス大会を実施することになったのが昭和45年で、この年から球史が始まり、市民大会の第1回大会が行われました。また、この年に市長杯が贈られたので秋季に市長杯争奪大会を行いました。この両大会は昭和62年に第18回、昭和63年に第19回大会を迎えて第20回大会から平成時代に入りました。鈴鹿テニス協会の大会も歴史を深めています。発足当時は市内に公営コートもなく少なかったもので、昭和40年に完成した鈴鹿高専コートで実施してきましたが、昭和48年にスポーツセンター、50年に市営コートが設置され、この両コートを主会場にし、参加者の増加とともに大会も、ジュニア種目、団体戦、津市との連合大会、家庭婦人大会などが開催されるようになりました。また普及活動では初心者講習を目的とするテニス教室を51年度から行い、毎年好評です。このテニス教室の受講者用テキストとして54年に「テニスを始める人に」を発刊し、56年にはこれをより充実したものに改訂し再版しました（記念誌表紙）。今回、30周年記念誌を発行する事になり、各大会を振り返って記録をまとめ入賞者一覧表を作成しました。

文字どおり鈴鹿テニス協会のテニス史を一覧できます。これらの大会は大部分が協会加盟の主力団体代表者が中心になって、運営委員長と連絡をとりあい「大会運営要領書」の定めるところにより、大会要項の作成、送付から当日の大会運営、結果報告まですべて行っている会員の大会です。

また、各大会とも参加者数と借用コート数を考慮して可能な限りコンソレーション試合を行っています。当協会にはミックスタブルスはありませんが、普及委員会主管の大会で実施しています。

各大会ごとに寸評を加えて表示しましたので、当初から協会にたずさわってこられた方には、今までの年輪をかみしめていただき、近年から協会に関係された方は身近な協会として今後の発展に参画していただきたいと思います。

## ① 鈴鹿市選手権大会一般の部

昭和45年に第1回大会を行った最も伝統のある大会です。当初は参加者も少なく、優勝もやりやすかった？ようですが、最近はシングルスで男子100名前後のエントリーとなっていますので、たとえ1セットでも一日で決勝まで実施されると、決勝出進者は7セットを精神力で立向わねばなりません。日頃スタミナ作りに地道な努力を重ねてきた人が栄冠に輝くこととなります。なお、本大会の一般と壮年の部の優勝者は県民体育大会（現郡市対抗トーナメント）の鈴鹿市選手となり、他郡市の選手と郷土の栄光のために競いあっていただくことになっています。また、61年度第17回大会より成年2部（壮年の部に該当）が新設されたため、本大会でも男子シングルスに40才以上の部が設けられ、平成4年、第23回大会より参加資格が45才以上に変更されました。なお45才以上であっても、またジュニア該当者であっても一般の部に参加できます。

一 般 男 子 シ ン グ ル ス							
No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
1	昭和45年	第1回	吉村 猛	矢野多津雄			22
2	昭和46年	第2回	浜辺 昭雄	渡辺 幸照			26
3	昭和47年	第3回	前田 靖宗	浜辺 昭雄			48
4	昭和48年	第4回	前田 靖宗	浜辺 昭雄			54
5	昭和49年	第5回	米田 幸夫	六谷 幸三			66
6	昭和50年	第6回	伊藤 三雄	藪下 久生			64
7	昭和51年	第7回	近藤 和男	吉村 猛			62
8	昭和52年	第8回	吉村 猛	米田 幸夫			67
9	昭和53年	第9回	近藤 和男	吉村 猛	伊藤 三雄		76
10	昭和54年	第10回	近藤 和男	米田 幸夫	伊藤 三雄	吉村 猛	99
11	昭和55年	第11回	白水 徹夫	杉谷 隆之	藪下 久生	志治 良幸	81
12	昭和56年	第12回	米田 幸夫	近藤 和男	渡辺 武志	長田 孝雄	113
13	昭和57年	第13回	伊藤 三雄	村田 俊秀	甲斐 雄二	浜西 利彦	140
14	昭和58年	第14回	伊藤 三雄	村田 俊秀	浜西 利彦	渡辺 武志	122
15	昭和59年	第15回	伊藤 三雄	米田 幸夫	甲斐 雄二	六谷 幸三	111
16	昭和60年	第16回	伊藤 三雄	山崎 謙治	藪下 久生	北川 俊秀	129
17	昭和61年	第17回	伊藤 三雄	井口 健	北川 俊秀	豊田 敬一	99

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
18	昭和62年	第18回	井口 健	長田 孝雄	稲垣 義隆	大石 敏男	143
19	昭和63年	第19回	勝田 成仁	稲垣 義隆	北川 俊秀	井口 健	89
20	平成 1 年	第20回	大石 敏男	横田 直樹	伊藤 三雄	山田 晋司	93
21	平成 2 年	第21回	北川 俊秀	大石 敏男	谷口 範高	山崎 謙治	62
22	平成 3 年	第22回	大石 敏男	谷口 範高	横田 直樹	浜西 利彦	134
23	平成 4 年	第23回	大石 敏男	谷口 範高	横田 直樹	北川 俊秀	103
24	平成 5 年	第24回	横田 直樹	井上 和男	浜辺 正雄	林 恭史	108
25	平成 6 年	第25回	大石 敏男	伊藤 三雄	本田 徳実	横田 直樹	126
26	平成 7 年	第26回	大石 敏男	伊藤 三雄	豊田 和己	本田 徳実	106
27	平成 8 年	第27回	北川 俊秀	大石 敏男	伊藤 三雄	本田 徳実	92
28	平成 9 年	第28回	浜辺 正雄	森川 勝文	勝田 成仁	大石 敏男	88
29	平成10年	第29回	大石 敏男	清水 邦光	伊藤 三雄	林 恭史	79

一 般 女 子 シ ン グ ル ス

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
1	昭和45年	第1回	——	——			
2	昭和46年	第2回	——	——			
3	昭和47年	第3回	瀬川 明子	林 眞弓			10
4	昭和48年	第4回	林 眞弓				8
5	昭和49年	第5回	杉野 早苗	秋元奈緒子			15
6	昭和50年	第6回	田上 幸代	田中 朱美			10
7	昭和51年	第7回	田中 朱美	杉野 早苗			10
8	昭和52年	第8回	杉野 早苗	桜井 京子			15
9	昭和53年	第9回	梅田 明子	丸橋 孝子			17
10	昭和54年	第10回	樋口 京子	梅田 明子	酒井真由美	陸 浩子	45
11	昭和55年	第11回	古田 桂子	中田 郁代	酒井真由美	川村和歌子	28
12	昭和56年	第12回	宮木 照美	樋口 京子	中田 郁代	古田 桂子	23
13	昭和57年	第13回	横井ひろみ	三輪由紀子	杉田真起子	梅田 明子	32
14	昭和58年	第14回	金田充早恵	梅田 明子	梅原 頼子	大日方和枝	18
15	昭和59年	第15回	梅原 頼子	梅田 明子	大友 和美	三輪由紀子	20

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
16	昭和60年	第16回	大角 正美	村木真由美	佐々木泰子	大友 和美	23
17	昭和61年	第17回	大角 正美	大友 和美	豊田 信子	安中みちる	23
18	昭和62年	第18回	河本美代子	中西寿恵子	平岡 裕子	細野 香	21
19	昭和63年	第19回	豊田 信子	野田真須美	湯本 智子	松枝美由紀	20
20	平成1年	第20回	立石 素子	豊田 信子	後藤由美子	湊 敬子	18
21	平成2年	第21回	梅田 明子	梅原 頼子	豊田 信子	湊 敬子	14
22	平成3年	第22回	伊藤 里美	後藤由美子	湊 敬子	ドンナデスザ	25
23	平成4年	第23回	井上美帆子	出岡 栄子	宝 紀久子	島村 純子	32
24	平成5年	第24回	藤田 純子	家城美智子	後藤智代美	平見世津子	24
25	平成6年	第25回	藤田 純子	家城美智子	山田千佳子	後藤智代美	20
26	平成7年	第26回	稲垣小百合	後藤智代美	藤田 純子	田代 千代	14
27	平成8年	第27回	島村 純子	藤田 純子	後藤智代美	田代 千代	19
28	平成9年	第28回	後藤智代美	田島 雅美	岩崎ゆみ子	藤田 純子	23
29	平成10年	第29回	家城美智子	小木曾有紀	田島 雅美	田代 千代	19

壮 年 男 子 シ ン グ ル ス

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
1	昭和61年	第17回	浜辺 昭雄	佐藤 行利	山中 博	木村 俊夫	22
2	昭和62年	第18回	鈴木 堯善	渡辺 好明	市川 敏雄	山中 博	22
3	昭和63年	第19回	鈴木 堯善	清永 光義	明田 道彦	浜辺 昭雄	21
4	平成1年	第20回	山中 博	鈴木 堯善	清水 邦光	水谷 高幸	17
5	平成2年	第21回	薮下 久生	清永 光義	山中 博	鈴木 堯善	12
6	平成3年	第22回	清永 光義	渡辺 武志	浜辺 昭雄	栗谷 宏治	13
23回大会より参加資格45才以上となる。							
7	平成4年	第23回	浜辺 昭雄	佐藤 行利	栗谷 宏治	清永 光義	16
8	平成5年	第24回	浜辺 昭雄	清永 光義	伊熊 貞男	栗谷 宏治	8
9	平成6年	第25回	浜辺 昭雄	清永 光義	栗谷 宏治	新原 慎一	12
10	平成7年	第26回	清永 光義	山中 博	斉木 武	浜辺 昭雄	14
11	平成8年	第27回	斉木 隆信	斉木 武	栗谷 宏治	江藤 正之	10

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
28	平成 9 年	第 28 回	清永 光義	市川 敏雄	斉木 武	今村 務	9
29	平成 10 年	第 29 回	今村 務	市川 敏雄	斉木 武	森 有人	12

一 般 男 子 ダ ブ ル ス

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加組
1	昭和 45 年	第 1 回	吉村・矢野	石黒・沢井			13
2	昭和 46 年	第 2 回	藤牧・平野				9
3	昭和 47 年	第 3 回	浜辺・渡辺	矢田・坂谷			17
4	昭和 48 年	第 4 回	前田・六谷	瀬良・隅田			37
5	昭和 49 年	第 5 回	前田・六谷	伊熊・林			44
6	昭和 50 年	第 6 回	米田・米田	六谷・林			39
7	昭和 51 年	第 7 回	白水・穴原	浜辺・北條			30
8	昭和 52 年	第 8 回	吉村・伊藤	石黒・浜辺			30
9	昭和 53 年	第 9 回	近藤・渡辺	六谷・伊熊			56
10	昭和 54 年	第 10 回	吉村・伊藤	米田・米田	田村・矢田	坂本・志治	54
11	昭和 55 年	第 11 回	米田・西井	吉村・伊藤	村田・長田	今村・浜西	51
12	昭和 56 年	第 12 回	近藤・渡辺	白水・長谷	六谷・伊熊	粟谷・鈴木	52
13	昭和 57 年	第 13 回	伊藤・米田	甲斐・薮下	渡辺・田村	米川・斉木	86
14	昭和 58 年	第 14 回	渡辺・浜西	粟谷・鈴木	山中・小林	米川・井口	84
15	昭和 59 年	第 15 回	米田・有竹	渡辺・浜西	長田・北川	薮下・斉木	74
16	昭和 60 年	第 16 回	米田・有竹	伊藤・浜西	藤川・米川	石原・辻	82
17	昭和 61 年	第 17 回	内藤・勝田	山崎・稲垣	長田・北川	甲斐・薮下	84
18	昭和 62 年	第 18 回	伊藤・山崎	大石・浜西	長田・北川	斉木・井口	68
19	昭和 63 年	第 19 回	伊藤・大石	勝田・吉川	井口・斉木	稲垣・森川	50
20	平成 1 年	第 20 回	山崎・森川	横田・井口	鈴木・粟谷	渡辺・加藤	61
21	平成 2 年	第 21 回	大石・浜西	三岳・堀	横田・北川	谷口・日口	72
22	平成 3 年	第 22 回	大石・井上	志治・横田	中島・辻	稲垣・森川	49
23	平成 4 年	第 23 回	谷口・横田	長田・山下	上田・北川	井口・西田	58
24	平成 5 年	第 24 回	井上・長田	横田・早川	平井・岡本	勝田・吉川	59
25	平成 6 年	第 25 回	横田・林	大石・浜西	薮下・北川	井口・斉木	49

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加組
26	平成 7 年	第 26 回	横田・林	勝田・吉川	古市・安川	西田・今村	55
27	平成 8 年	第 27 回	横田・林	西田・須原	樋口・後藤	井口・斉木	49
28	平成 9 年	第 28 回	豊田・森	谷川・鈴木	長田・岡田	勝田・吉川	51
29	平成10年	第 29 回	大石・森川	横田・林	伊藤・水谷	森下・山中	40

一 般 女 子 ダ ブ ル ス

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加組
1	昭和 45 年	第 1 回	池中・村端				2
2	昭和 46 年	第 2 回					0
3	昭和 47 年	第 3 回	遠藤・林				5
4	昭和 48 年	第 4 回	宮本・小吹				6
5	昭和 49 年	第 5 回	杉野・秋元				9
6	昭和 50 年	第 6 回	田上・田中				8
7	昭和 51 年	第 7 回	杉野・川井				8
8	昭和 52 年	第 8 回	杉野・石渡	田中・岡野			10
9	昭和 53 年	第 9 回	梅田・川崎	岡野・水原			14
10	昭和 54 年	第 10 回	陸・川崎	三角・三輪	川村・水原	杉田・笹田	18
11	昭和 55 年	第 11 回	横井・犬飼	川名・中田	三輪・三角	川村・水原	15
12	昭和 56 年	第 12 回	三輪・岡野	古田・三角	川村・川名	中田・水原	19
13	昭和 57 年	第 13 回	樋口・梅田	日高・三輪	横井・吉田	河本・佐々木	21
14	昭和 58 年	第 14 回	三輪・渡辺	古田・河本	浜辺・長谷川	早間・海老原	20
15	昭和 59 年	第 15 回	大友・佐々木	伊藤・増井	三輪・河本	大竹・浜辺	16
16	昭和 60 年	第 16 回	河本・後藤	田中・桑野	吉沢・竹嶋	西山・岡田	18
17	昭和 61 年	第 17 回	大角・小竹	中西・佐々木	安中・豊田	河本・巖根	20
18	昭和 62 年	第 18 回	梅田・大友	安中・豊田	中西・佐々木	河本・巖根	14
19	昭和 63 年	第 19 回	梅原・浅田	野田・豊田	梅田・大友	服部・佐々木	20
20	平成 1 年	第 20 回	東口・湊	平尾・立石			13
21	平成 2 年	第 21 回	高橋・伊藤	中西・宝	藤田・湊	川北・見取	12
22	平成 3 年	第 22 回	出岡・梅原	梅田・河本	鈴木・平尾	伊藤・渡部	18
23	平成 4 年	第 23 回	出岡・梅原	梅田・河本	江藤・稲垣	秋山・小野寺	28

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加組
24	平成 5 年	第 24 回	藤田・平見	村田・貞光	鈴木・後藤	中西・宝	21
25	平成 6 年	第 25 回	山田・萩	中西・宝	貞光・落合	梶野・井上	15
26	平成 7 年	第 26 回	藤田・平見	田島・田代	坂倉・高橋	石垣・前田	30
27	平成 8 年	第 27 回	藤田・平見	田島・田代	杉平・服部	中西・宝	27
28	平成 9 年	第 28 回	田島・中尾	藤田・平見	加藤・浅生	田代・杉山	27
29	平成 10 年	第 29 回	田島・中尾	藤田・田代	島村・家城	落合・貞光	14

## ② 鈴鹿市選手権大会ジュニアの部

将来の有望選手を目指す中、高校生の大会として発足しました。一般のジュニア大会は年令別で 18 才以下、16 才以下などと 2 才きざみになっていますが本大会は高校 2 年以下の年令者のみが参加します。かつては中学生の入賞者も多く、その後、高校、大学と活躍を続けた選手もいました。最近の大会では市内に高校が増設され、高校生ジュニア選手が参加者の中心をなしている一方、中学校のテニス部が消滅してしまいました。当初大会はシングルス、ダブルスとも夏休み中の 8 月中旬に行われていましたが、県大会等試合がこの時期に多いため 3 月の春休み中に行われるようになりました。

ジュニア男子シングルス							
No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
1	昭和 51 年	第 1 回	一木 好永	小宮 久幸			23
2	昭和 52 年	第 2 回	村田 昭	別所 勇治			35
3	昭和 53 年	第 3 回	須山 秀基	高橋 一仁			36
4	昭和 54 年	第 4 回	杉谷 隆之	北山 綱次	松田 裕一	美濃部克哉	60
5	昭和 55 年	第 5 回	関谷 憲生	山田 淳一	近藤 正一	水原 徹	66
6	昭和 56 年	第 6 回	塚田 賢一	中山 隆	柿沼 武	黒川 明彦	68
7	昭和 57 年	第 7 回	坂本 正人	小林 勉	柿沼 武	村主 隆行	45
8	昭和 58 年	第 8 回	渥美 博幸	前川 佳昭	柿沼 武	高田 勝	39
9	昭和 59 年	第 9 回	清水 隆	原 将輝	達知 利雄	渡辺 裕治	44
10	昭和 60 年	第 10 回	渡辺 裕治	伊藤 彰	長谷川勝昭	石田 英慎	42
11	昭和 61 年	第 11 回	田中 英貴	伊藤 彰	南山 正樹	荻田 潔	35

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
12	昭和62年	第12回	馬島 貞義	藤田 泉	山本 康司	伊藤 秀哉	47
13	昭和63年	第13回	横田 信彦	森川 勝文	舘 貞人	長谷川友岐	48
14	平成1年	第14回	森川 勝文	森下 功	加藤 深志	服部 浩樹	57
15	平成2年	第15回	国本 明裕	森下 功	清水 邦光	加藤 仁	61
16	平成3年	第16回	宮崎 貴範	西岡 真一	伊藤 充輝	岡田 公二	67
17	平成4年	第17回	多賀 久晴	伊豆 昇	小川 真輝	伊藤 貴俊	60
18	平成5年	第18回	村上 武久	山中 義輝	山中 乾史	中尾 光宏	50
19	平成6年	第19回	岡田 朗	太田 悟	丹羽 雄介	堀川 征人	61
平成7年 開催時期変更のため実施なし、以降3月に実施							
20	平成8年	第20回	森 忠久	長谷 光隆	坂倉 孝俊	川村 信久	48
21	平成9年	第21回	駒田 吉宏	服部 謙一	前田 暁利	岡野 佳典	41
22	平成10年	第22回	永井 智之	鈴木 崇宣	岡野 佳典	河合 陽太	39

ジュニア女子シングルス

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
1	昭和51年	第1回	尾崎 哲子	磯野佳津美			14
2	昭和52年	第2回	梅田 明子	浦上 明美			20
3	昭和53年	第3回	川崎 明美	梅田 明美			29
4	昭和54年	第4回	梅田 明子	吉崎由美子	水谷 弘子	戸田 裕子	33
5	昭和55年	第5回	大友 和美	篠木美和子	梅田 明子	宇井 千里	52
6	昭和56年	第6回	梅田 明子	大友 和美	村木真由美	長田 緑	67
7	昭和57年	第7回	今田 貴子	長田 緑	前野 尚美	水谷あゆみ	53
8	昭和58年	第8回	今田 貴子	長田 緑	佐藤 洋子	大和妹津子	24
9	昭和59年	第9回	長田 緑	大和妹津子	河野 展子	西田 洋子	48
10	昭和60年	第10回	豊田 信子	木下 豊子	長田 明子	山崎ミユキ	43
11	昭和61年	第11回	安中みちる	豊田 信子	佐藤 友美	伊藤 妙子	37
12	昭和62年	第12回	安中みちる	松谷 直美	佐藤 友美	別所由美子	40
13	昭和63年	第13回	別所由美子	在間 新子	小倉 香織	加藤 珠紀	48
14	平成1年	第14回	加藤 珠紀	日高 三恵	中村 裕美	丹羽 恵美	44
15	平成2年	第15回	折戸 雅子	舘 ゆぐみ	石崎真由美	加藤 史恵	36

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参 加 数
16	平成 3 年	第 16 回	前川 幸子	藤井 和子	紙谷 友美	小泉 二三	56
17	平成 4 年	第 17 回	寺田 小巻	紙谷 友美	伊藤 恵美	藤井 万澄	38
18	平成 5 年	第 18 回	川原 奈美	坂崎美由紀	坂崎 友紀	上野真樹子	30
19	平成 6 年	第 19 回	川原 奈美	麻生 真由	石崎 愛	大畑 幸子	38
平成 7 年 開催時期変更のため実施なし、以降 3 月に実施							
20	平成 8 年	第 20 回	堤 さとみ	西田 友紀	金武 智子	伊藤 加代	48
21	平成 9 年	第 21 回	伊藤 加代	三村 歩	大西 智恵	館 明子	23
22	平成 10 年	第 22 回	堤 裕子	宮田 眞弓	萩 真理子	西村真理子	14

ジュニア男子ダブルス								
No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加組	
1	昭和 51 年	第 1 回	ダブルスは第 2 回から					
2	昭和 52 年	第 2 回	坂上・別所	福田・村田			22	
3	昭和 53 年	第 3 回	須山・水谷	高橋・坂本			22	
4	昭和 54 年	第 4 回	北山・峯山	志治・美濃部	羽田・伊藤	服部・村田	31	
5	昭和 55 年	第 5 回	水谷・下	村田・坂上	山本・山田		31	
6	昭和 56 年	第 6 回	塚田・堀田	黒川・館	吉田・坂本		16	
7	昭和 57 年	第 7 回	村主・佐々木	黒川・坂本	小林・柿沢	井上・林	27	
8	昭和 58 年	第 8 回	高橋・佐々木	高田・藤田	高橋・中条	渥美・山越	29	
9	昭和 59 年	第 9 回	古市・渡辺	清水・原	堂原・武知	達知・出岡	20	
10	昭和 60 年	第 10 回	石田・後藤	田中・伊藤	玉田・早川	小林・池畑	20	
11	昭和 61 年	第 11 回	田中・伊藤	宇井・横川	萩野・萩田	北村・杉本	10	
12	昭和 62 年	第 12 回	馬島・伊東	藤田・浜口	矢田・末永	山本・原田	17	
13	昭和 63 年	第 13 回	横田・長谷川	豊田・東	岡村・五味	太田・清水	22	
14	平成 1 年	第 14 回	加藤・北村	岡村・五味	東山・清水	太田・森下	24	
15	平成 2 年	第 15 回	清水・東山	国本・加藤	戸松・海野	菅野・伊藤	27	
16	平成 3 年	第 16 回	西岡・岡田	奥野・宮崎	多賀・真下	伊藤・世古口	19	
17	平成 4 年	第 17 回	多賀・伊藤	村上・山中	佐藤・真下	山中・構江	29	
18	平成 5 年	第 18 回	山中・堀内	村上・山中	人見・曾根	中尾・水野	26	
19	平成 6 年	第 19 回	岡田・堀川	太田・上谷川	清水・岡田	永田・川村	—	

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加組
平成 7 年 開催時期変更のため実施なし、以降 3 月に実施							
20	平成 8 年	第 20 回	森・川村	永田・古賀	坂倉・清水	丹羽・駒田	20
21	平成 9 年	第 21 回	永井・大河原	駒田・前田	後藤・服部	鈴木・岡野	20
22	平成 10 年	第 22 回	鈴木・岡野	永井・堀川	平井・北住	河合・瀧川	18

ジュニア女子ダブルス								
No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加組	
1	昭和 51 年	第 1 回	ダブルスは第 2 回から					
2	昭和 52 年	第 2 回	仲見・浦上	梅田・田中			18	
3	昭和 53 年	第 3 回	川崎・梅田	酒井・陸			19	
4	昭和 54 年	第 4 回	梅田・篠木	尾崎・河村	門野・堀川	市川・水谷	25	
5	昭和 55 年	第 5 回	梅田・篠木	倉田・足立	高木・吉田		29	
6	昭和 56 年	第 6 回	村木・倉田	吉岡・中西	寺島・上田		5	
7	昭和 57 年	第 7 回	大和・長田	木下・安江	大浦・渡辺	前野・竹内	27	
8	昭和 58 年	第 8 回	大和・長田	西田・今田	山崎・今村	佐野・西掘	25	
9	昭和 59 年	第 9 回	河野・小川	出口・桜井	篠木・鈴木	杉野・倉田	19	
10	昭和 60 年	第 10 回	豊田・広瀬	木下・山崎	栗本・草深	長田・高山	18	
11	昭和 61 年	第 11 回	安中・豊田	佐藤・森	本村・仮屋	沢井・大場	17	
12	昭和 62 年	第 12 回	安中・佐藤	河本・松谷	太田・倉田	別所・仮屋	17	
13	昭和 63 年	第 13 回	別所・在間	小倉・阪倉	山川・世古	日高・長谷部	22	
14	平成 1 年	第 14 回	日高・長谷部	加藤・中村	石崎・館	阪倉・折戸	22	
15	平成 2 年	第 15 回	村山・鈴木	石崎・館	前川・坂本	徳永・川比	18	
16	平成 3 年	第 16 回	藤井・伊森	紙谷・奥田	西村・水谷	佐藤・前川	24	
17	平成 4 年	第 17 回	寺田・藤井	紙谷・蝦名	阿野・中川	伊藤・川原	14	
18	平成 5 年	第 18 回	上野・坂崎美	川原・加藤	伊藤・坂崎友	大畑・麻生	20	
19	平成 6 年	第 19 回	川原・麻生	大畑・加藤	石垣・西田	小辻・堤	19	
平成 7 年 開催時期変更のため実施なし、以降 3 月に実施								
20	平成 8 年	第 20 回	西田・堤	青木・伊藤	西村・草深	岡田・加太	24	
21	平成 9 年	第 21 回	伊藤・館	三村・渡辺	岡田・坂田	大西・伊藤	14	
22	平成 10 年	第 22 回	宮田・堤	西村・萩	岡崎・岩下	矢田・上原	7	

### ③ 市長杯争奪大会

市長杯争奪大会は鈴鹿市選手権と同じく鈴鹿テニス協会発足とともに始まった大会です。当時の市長が市体育協会加盟の競技団体にカップを贈られ、テニス協会も45年に男子用を、46年に女子用を受領しました。当初は参加ペアも少なく、女子は大会を実施できない年もありましたが、最近は鈴鹿市選手権ダブルスの秋季版という感じになりました。

男 子 ダ ブ ル ス							
No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加組
1	昭和45年	第 1 回	吉村・伊藤猛	渡辺・伊藤			32
2	昭和46年	第 2 回	渡辺・前田	藤牧・中野			16
3	昭和47年	第 3 回	藤牧・平野	渡辺・坂			19
4	昭和48年	第 4 回	前田・六谷	薮下・米川			26
5	昭和49年	第 5 回	前田・六谷	瀬良・堀			44
6	昭和50年	第 6 回	近藤・渡辺	前田・六谷			30
7	昭和51年	第 7 回	近藤・渡辺	前田・林			39
8	昭和52年	第 8 回	薮下・米川	六谷・伊熊			36
9	昭和53年	第 9 回	近藤・渡辺	儀賀・北條			47
10	昭和54年	第10回	米田・伊藤	近藤・渡辺	砂原・矢川	鈴木・栗谷	57
11	昭和55年	第11回	白木・長谷	浜西・山中	田村・田村	嶋谷・渡辺	53
12	昭和56年	第12回	近藤・渡辺	鈴木・栗谷	岡田・井口	薮下・甲斐	70
13	昭和57年	第13回	米川・斉木	村田・長田	渡辺・浜西	葛山・森田	71
14	昭和58年	第14回	米川・井口	六谷・伊熊	山本・中山	鈴木・栗谷	73
15	昭和59年	第15回	伊藤・稲垣	佐藤・山中	井口・豊田	北川・佐藤	64
16	昭和60年	第16回	北川・長田	浜西・伊藤	豊田・山下	井口・斉木	61
17	昭和61年	第17回	北川・長田	藤沢・矢田	渡辺・斉木	伊熊・新居	49
18	昭和62年	第18回	井口・大石	北川・長田	山中・伊熊	薮下・渡辺	48
19	昭和63年	第19回	井口・斉木	山崎・森川	薮下・渡辺	横田・林	43
20	平成 1 年	第20回	横田・北川	勝田・森川	大石・伊藤	薮下・渡辺	32
21	平成 2 年	第21回	谷口・遠藤	伊藤・斉木	松岡・吉川	北川・大石	36
22	平成 3 年	第22回	井上・北川	稲垣・谷口	斉木・井口	伊藤・林	44

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加組
23	平成 4 年	第 23 回	大石・井上	北川・井口	勝田・森川	小宮・鈴木	50
24	平成 5 年	第 24 回	高橋・高橋	井口・斉木	伊藤・橋岡	勝田・吉川	77
25	平成 6 年	第 25 回	横田・林	井口・斉木	高橋・高橋	渡辺・辻	44
26	平成 7 年	第 26 回	渡辺・堤	水谷・北川	大石・今村	勝田・吉川	55
27	平成 8 年	第 27 回	勝田・吉川	谷川・森川	伊藤・林	樋口・後藤	59
28	平成 9 年	第 28 回	渡辺・市川	森下・山中	横田・徳重	高橋・高橋	42
29	平成 10 年	第 28 回	高橋・市川	山中・堀内	森川・林	横田・徳重	34

女 子 ダ ブ ル ス

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
1	昭和 45 年	第 1 回					—
2	昭和 46 年	第 2 回	町谷喜代子				単 4
3	昭和 47 年	第 3 回					—
4	昭和 48 年	第 4 回	小浜・峰村				3
5	昭和 49 年	第 5 回	杉野・川井				9
6	昭和 50 年	第 6 回	服部・山田				5
7	昭和 51 年	第 7 回	杉野・石渡	鈴木・瀬古			11
8	昭和 52 年	第 8 回	杉野・石渡	桜井・吉村			15
9	昭和 53 年	第 9 回	川崎・梅田	岡野・古田			11
10	昭和 54 年	第 10 回	樋口・陸	三角・三輪	川村・水原	古田・岡野	24
11	昭和 55 年	第 11 回	三角・古田	河本・佐々木	窪田・橋本	石谷・佐藤	16
12	昭和 56 年	第 12 回	三輪・古田	平林・日置	三角・中田	川名・川村	18
13	昭和 57 年	第 13 回	樋口・宮本	梅田・梅原	金田・大日方	日置・寺本	24
14	昭和 58 年	第 14 回	三輪・渡辺	浦和・河本	奥川・鈴木	伊藤・増井	13
15	昭和 59 年	第 15 回	梅田・梅原	三輪・河本	大友・佐々木	奥川・比嘉	19
16	昭和 60 年	第 16 回	大友・梅田	大角・小竹	龍山・増井	巖根・佐々木	21
17	昭和 61 年	第 17 回	中西・佐々木	大友・吉川	岡田・中田	山納・阪	27
18	昭和 62 年	第 18 回	大友・吉川	中西・佐々木	平尾・後藤	岡田・中田	13
19	昭和 63 年	第 19 回	杉本・豊田	東口・湊	中西・佐々木	梅原・玉邑	22
20	平成 1 年	第 20 回	中西・宝	後藤・平尾			15

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加組
21	平成 2 年	第 21 回	後藤・藤田	服部・谷口	岡田・桑野	佐藤・藤田孝	22
22	平成 3 年	第 22 回	河本・梅田	梅原・水谷	伊藤・藤田	稲垣・佐藤	21
23	平成 4 年	第 23 回	梅原・水谷	河本・梅田	後藤・佐藤	藤田・浅生	24
24	平成 5 年	第 24 回	藤田・浅生	島村・宮崎	森田・米山	山田・萩	26
25	平成 6 年	第 25 回	藤田・平見	山田・萩	後藤・田代	島村・家城	28
26	平成 7 年	第 26 回	田島・田代	後藤・木室	山田・萩	倉岡・村田	30
27	平成 8 年	第 27 回	藤田・平見	伊藤・小野寺	宮崎・田代	矢田・伊藤	26
28	平成 9 年	第 28 回	田島・中尾	後藤・貞光	田代・信藤	梶野・井上	25
29	平成 10 年	第 29 回	藤田・平見	田代・島村	多田・岩崎	伊藤・小野寺	21

#### ④ 鈴鹿オープンシングルス選手権大会

鈴鹿オープン選手権は当初鈴鹿市選手権シングルス上位入賞者を集めた大会として発足し、敗者復活戦方式で実施してきましたが、61年度の第 11 回大会から鈴鹿テニス協会登録者以外も参加できるオープン大会として継続していくことになり、回を重ねています。

男 子 シ ン グ ル ス							
No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
1	昭和 51 年	第 1 回	吉村 猛	渡辺 武志			22
2	昭和 52 年	第 2 回	吉村 猛	林 茂			21
3	昭和 53 年	第 3 回	砂原 衛	浜辺 昭雄			23
4	昭和 54 年	第 4 回	伊藤 三雄	藪下 久生			21
5	昭和 55 年	第 5 回	浜西 利彦	渡辺 武志			20
6	昭和 56 年	第 6 回	伊藤 三雄	渡辺 武志	甲斐 雄二		23
7	昭和 57 年	第 7 回	米川 一也	平林 克也			19
8	昭和 58 年	第 8 回	米田 幸夫	浜西 利彦			26
9	昭和 59 年	第 9 回	浜西 利彦	井口 健	平林 克也		13
10	昭和 60 年	第 10 回	山崎 謙治	長田 孝雄			26
11	昭和 61 年	第 11 回	山崎 謙治	鬼頭 幸男	若山真一郎	柳川 洋史	116
12	昭和 62 年	第 12 回	鬼頭 幸男	伊藤 三雄	大平 和輝	勝田 成仁	97

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
13	昭和 63 年	第 13 回	勝田 成仁	鬼頭 幸男	山崎 謙治	柳川 洋史	109
14	平成 1 年	第 14 回	横田 直樹	水谷 豪	角 由信	樋口 雅也	127
15	平成 2 年	第 15 回	鬼頭 幸男	大平 和輝	北川 俊秀	勝田 成仁	127
16	平成 3 年	第 16 回	鬼頭 幸男	勝田 成仁	横田 直樹	井上 晃一	165
17	平成 4 年	第 17 回	横田 直樹	山崎 謙治	大石 敏男	畑中 政実	135
18	平成 5 年	第 18 回	大石 敏男	高橋 尚樹	柴田 勇	中野 裕史	135
19	平成 6 年	第 19 回	瀬古 征弘	森下 功	浜辺 正雄	福山 克幸	116
20	平成 7 年	第 20 回	高橋 尚樹	古山 直征	水谷 正典	梶山 義成	158
21	平成 8 年	第 21 回	横田 直樹	浜辺 正雄	角 由信	山寄 真吾	130
22	平成 9 年	第 22 回	大石 敏男	吉川 佳男	勝田 成仁	瀬古 征弘	111
23	平成 10 年	第 23 回	大石 敏男	山本 竜彦	長谷川 良	鏡 亮太	86

女 子 シ ン グ ル ス							
No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
1	昭和 51 年	第 1 回	杉野 早苗				8
2	昭和 52 年	第 2 回	杉野 早苗	陸 浩子			10
3	昭和 53 年	第 3 回	川崎 明美	梅田 明子			10
4	昭和 54 年	第 4 回	樋口 京子	三輪由紀子			10
5	昭和 55 年	第 5 回	樋口 京子	三輪由紀子			12
6	昭和 56 年	第 6 回	樋口 京子	平林 眞弓	梅田 明子		14
7	昭和 57 年	第 7 回	梅田 明子	梅原 頼子			15
8	昭和 58 年	第 8 回	金田充早恵	梅田 明子			16
9	昭和 59 年	第 9 回	梅田 明子	村木真由美	大友 和美		12
10	昭和 60 年	第 10 回	大友 和美	佐々木泰子	中西寿恵子		13
11	昭和 61 年	第 11 回	大友 和美	山下 淑子	桜井 文乃	大井 元子	29
12	昭和 62 年	第 12 回	大友 和美	松谷 直美	柴田恵美子	吉沢 久子	18
13	昭和 63 年	第 13 回	加藤 ゆり	大友 和美	後藤由美子	立石 素子	7
14	平成 1 年	第 14 回	藤田 純子	立石 素子	高橋のぞみ	田村 久子	19
15	平成 2 年	第 15 回	藤田 純子	後藤由美子	伊藤 里美	大井 元子	35
16	平成 3 年	第 16 回	藤田 純子	島村 純子	後藤由美子	井上 洋子	46

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加 人数
17	平成 4 年	第 17 回	島村 純子	稲垣小百合	藤田 純子	小野寺かよ子	47
18	平成 5 年	第 18 回	島村 純子	藤田 純子	後藤智代美	荒木真理子	33
19	平成 6 年	第 19 回	寺本 みか	平見世津子	白川 真理	藤田 純子	37
20	平成 7 年	第 20 回	川崎 恭子	田島 雅美	寺本 みか	本室 栄子	41
21	平成 8 年	第 21 回	秋豆えりな	家城美智子	後藤智代美	梶原加生里	35
22	平成 9 年	第 22 回	川床 萌	家城美智子	後藤智代美	岩越 綾子	40
23	平成 10 年	第 23 回	伊藤亜理沙	岩越 綾子	後藤智代美	梶原加生里	28

### ⑤ 家庭婦人大会

数 10 年前から家庭婦人のテニス熱は年々盛んになってきていますが、約 20 年前に、大谷前会長から持廻り杯の寄贈を受け、大会が開始されました。発足当初優勝者が固定している難点?がありました。大会の発展とともに、大勢の戦いになってきました。

全参加者が「今日はひょっとすると」と希望をもって大会に臨めるよう第 4 回から組合せは当日、試合前に抽せんにより決定されることになりました。しかしシングルの部は第 18 回で球史を閉じることとなり、年 2 回のダブルス大会に変更されました。このダブルス大会の優勝者ペアは連続して同一ペアでは参加できない規定になっています。

シ ン グ ル ス							
No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加 人数
1	シングルスは第 2 回より						
2	昭和 55 年	第 2 回	三輪由紀子	中田 郁代	古田 桂子		14
3	昭和 56 年	第 3 回	三輪由紀子	日高由紀子	河本美代子	古田 桂子	20
4	昭和 57 年	第 4 回	三輪由紀子	日高由紀子	河本美代子	中田 郁代	22
5	昭和 58 年	第 5 回	桑野 文子	中田 郁代	浦和スエ子	川村和歌子	24
6	昭和 59 年	第 6 回	佐々木泰子	中西寿恵子	鈴木 節子	浜辺嘉寿代	28
7	昭和 60 年	第 7 回	中西寿恵子	服部 孝子	川村和歌子	田辺かづ子	28
8	昭和 61 年	第 8 回	吉沢 久子	阪 雅子	浜辺嘉寿代	宝 紀久子	32
9	昭和 62 年	第 9 回	鈴木 敦子	宝 紀久子	藤田 純子	西山理枝子	28
10	昭和 63 年	第 10 回	後藤由美子	中田 郁代	立石 素子	浜辺嘉寿代	33
11	平成 1 年	第 11 回	藤田 純子	湊 敬子	鈴木いしゑ	立石 素子	39

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参 加 人 数
12	平成 2 年	第 12 回	宝 紀久子	後藤由美子	鈴木いしゑ	西山 尚子	32
13	平成 3 年	第 13 回	藤田 純子	平見世津子	浜辺嘉寿代	伊藤 里美	32
14	平成 4 年	第 14 回	島村 純子	竹中 香代	平見世津子	宝 紀久子	35
15	平成 5 年	第 15 回	藤田 純子	小野寺かよ子	後藤智代美	加藤 典子	41
16	平成 6 年	第 16 回	宮崎美智子	後藤智代美	川島 晴子	矢田真知子	25
17	平成 7 年	第 17 回	後藤智代美	阪 雅子	山田千佳子	大谷 延子	18
18	平成 8 年	第 18 回	二宮 里美	大谷 延子	阪 雅子	岩崎ゆみ子	
ダブルスに変更							
19	平成 9 年	第 1 回	谷口・萩原	伊藤・小野寺	岩崎・小久保	村田・貞光	32
20	平成 10 年	第 2 回	平見・杉山	島村・浅生	宮崎・貞光	加藤・小野寺	32

ダ ブ ル ス							
No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加組
1	昭和 54 年	第 1 回	三輪・三角	岡野・古田	川村・水原	中田・森田	17
2	昭和 55 年	第 2 回	三輪・岡野	日高・七崎	河本・佐々木	水原・中田	19
3	昭和 56 年	第 3 回	三輪・古田	日高・河本	中田・三角	岡野・水原	18
4	昭和 57 年	第 4 回	三輪・日高	古田・河本	桑野・田中	浦和・岩崎	21
5	昭和 58 年	第 5 回	中田・佐々木	桑野・田中	川村・水原	若林・岩崎	18
6	昭和 59 年	第 6 回	河本・浦和	岡田・清水	川村・水原	田辺・浜辺	20
7	昭和 60 年	第 7 回	桑野・田中	西山・岡田	中西・平尾		16
8	昭和 61 年	第 8 回	川村・服部	西山・中田	田辺・吉沢	浜辺・清水	32
9	昭和 62 年	第 9 回	後藤・松田	岡田・中田	鈴木・立石	西山・神田	28
10	昭和 63 年	第 10 回	平尾・立石	東口・湊	浜口・中世古	加藤・山納	30
11	平成 1 年	第 11 回	東口・湊	平尾・中西	松原・宮河	荒井・林	35
12	平成 2 年	第 12 回	伊藤・高橋	平野・浅生	鈴木・平尾	川島・中世古	38
13	平成 3 年	第 13 回	後藤・田代	川北・見取	竹中・鈴木	谷口・湊	29
14	平成 4 年	第 14 回	藤田・林	渡辺・竹中	山城・浅生	小山・落合	40
15	平成 5 年	第 15 回	秋山・大鷲	藤田・家城	村田・貞光	中西・宝	37
16	平成 6 年	第 16 回	藤田・平見	伊藤・小野寺	坂倉・米山	江角・山田	31
17	平成 7 年	第 17 回	草川・加藤	田島・田代	中西・宝	江角・前田	39

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加組
18	平成 8 年	第 18 回	田島・田代	落合・宮崎	村田・倉岡	北川・浜口	41
19	平成 9 年	第 19 回	中西・宝	菅野・岩崎	後藤・木室	加藤・小野寺	43
20	平成 10 年	第 20 回	杉山・藤田	多田・岩崎	二宮・岩井	田島・貞光	29

## ⑥ 鈴鹿ハードコートダブルス選手権大会

59年10月に鈴鹿青少年スポーツセンターにハードコート6面が新設されテニス愛好者に利用されるようになりました。このコートでダブルスの大会が行われるようになり、コートサーフェスの違いを活かしたダブルス大会として選手には魅力のある大会として親しまれました。平成10年第14回大会でスポーツセンターが廃止となり、大会の実施も危ぶまれましたが、県営スポーツガーデン屋内シェルターハードコートでの実施となり大会が継続されています。

男 子 ダ ブ ル ス							
No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加組
1	昭和 60 年	第 1 回	豊田・山下	山崎・稲垣	五嶋・浦和	薮下・渡辺	67
2	昭和 61 年	第 2 回	豊田・山下	北川・松岡	早川・稲垣	薮下・甲斐	64
3	昭和 62 年	第 3 回	大石・浜西	稲垣・勝田	粟谷・鈴木	薮下・渡辺	68
4	昭和 63 年	第 4 回	井口・山下	北川・佐藤	薮下・渡辺	勝田・浅田	63
5	平成 1 年	第 5 回	伊藤・杉山	薮下・渡辺	山田・吉田	浜西・伊熊	48
6	平成 2 年	第 6 回	井口・斉木	杉山・林	山崎・谷口	豊田・山下	53
7	平成 3 年	第 7 回	谷口・遠藤	豊田・アンドル	日口・小宮	前田・宇井	44
8	平成 4 年	第 8 回	伊藤・林	井口・山下	古市・安川	勝田・吉川	52
9	平成 5 年	第 9 回	横田・井上	大石・浜西	伊藤・林	井口・北川	76
10	平成 6 年	第 10 回	大石・浜西	横田・稲垣	井口・斉木	伊藤・林	49
11	平成 7 年	第 11 回	森下・清水	伊藤・斎木	北村・御蘭生	横田・林	59
12	平成 8 年	第 12 回	樋口・後藤	伊藤・西田	横田・林	高橋・高橋	51
13	平成 9 年	第 13 回	伊藤・渡辺	横田・林	谷川・鈴木	大石・森川	50
14	平成 10 年	第 14 回	高橋・市川	横田・林	山下・豊田	山中・村上	42

女 子 ダ ブ ル ス							
No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加組
1	昭和60年	第 1 回	大角・小竹	巖根・佐々木	稲垣・村木	古海・河原	20
2	昭和61年	第 2 回	中西・佐々木	河本・巖根	大角・小竹	稲垣・渡来	17
3	昭和62年	第 3 回	河本・巖根	高木・稲垣	杉本・玉邑	浅田・坂口	17
4	昭和63年	第 4 回	中田・平尾	浅田・坂口	中西・吉川	後藤・湊	16
5	平成 1 年	第 5 回	豊田・野田	宮河・高橋			11
6	平成 2 年	第 6 回	高橋・伊藤	藤田・湊	山納・阪	豊田・宮崎	8
7	平成 3 年	第 7 回	藤田・宝	宮崎・家城	小山・落合	鈴木・渡辺	18
8	平成 4 年	第 8 回	大鷲・秋山	浅生・宮崎	藤田・林	谷口・湊	25
9	平成 5 年	第 9 回	藤田・家城	梅原・井上	島村・宮崎	浅生・山田	33
10	平成 6 年	第10回	大鷲・藤田	家城・浅生	草川・加藤	貞光・村田	23
11	平成 7 年	第11回	藤田・杉山	平見・浅生	草川・加藤	島村・家城	22
12	平成 8 年	第12回	島村・鈴木	浅生・山田	中西・宝	田島・田代	25
13	平成 9 年	第13回	田島・中尾	二宮・岩崎	藤田・杉山	菅野・小久保	24
14	平成10年	第14回	田島・中尾	鈴木・杉山	大澤・矢田	藤田・家城	21

## ⑦ 中 勢 選 手 権 大 会

一年中の最も暑い時期に開催される津テニス協会との連合大会です。両地区ともほぼ同レベルのプレイヤーが多いため、なかなか興味ある試合が展開されます。年によって、また種目によっては津のプレイヤーの入賞者が多かったり、鈴鹿のプレイヤーが多かったりした結果が残っています。家庭婦人ダブルスは、家庭婦人層のダブルス大会が年間を通して多いため平成8年より中止となりました。このため家庭婦人は一般女子シングルスに参加して活躍してほしい大会です。ジュニア種目はウィークディに実施されています。

一 般 男 子 シ ン グ ル ス							
No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
1	昭和50年	第 1 回	白木 徹夫	伊藤 三雄			53
2	昭和51年	第 2 回	吉村 猛	鈴木 広			39
3	昭和52年	第 3 回	浜辺 昭雄	六谷 幸三			58

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加 人数
4	昭和53年	第4回	浜辺 昭雄	米川 一也			75
5	昭和54年	第5回	阪 政則	倉田 雄三	砂原 衛	米川 一也	114
6	昭和55年	第6回	浜辺 昭雄	小林 衛	中井 正人	長谷 政美	93
7	昭和56年	第7回	伊藤 三雄	米田 幸夫	志治 良幸	三宅 正之	156
8	昭和57年	第8回	中井 正人	米川 一也	三宅 康文	浜西 利彦	126
9	昭和58年	第9回	志治 良幸	中井 正人	三宅 正之	篠田 和秀	152
10	昭和59年	第10回	大川 智弘	中井 正人	米川 一也	山本 昇	133
11	昭和60年	第11回	井口 健	山崎 謙治	伊藤 三雄	米田 幸夫	182
12	昭和61年	第12回	井口 健	山崎 謙治	中井 正人	北川 俊秀	190
13	昭和62年	第13回	山崎 謙治	伊藤 三雄	中井 正人	井口 健	118
14	昭和63年	第14回	伊藤 三雄	山崎 謙治	井口 健	角 由信	102
15	平成1年	第15回	山崎 謙治	伊藤 三雄	角 由信	橋本 真一	90
16	平成2年	第16回	山崎 謙治	岸江 浩司	横田 直樹	勝田 成仁	96
17	平成3年	第17回	大石 敏男	勝田 成仁	北川 俊秀	橋本 真一	97
18	平成4年	第18回	大石 敏男	浜辺 正雄	井上 和男	柴田 勇	127
19	平成5年	第19回	勝田 成仁	浜辺 正雄	浜辺 昭雄	岸江 浩司	155
20	平成6年	第20回	山田 慎也	畑中 政実	角 由信	浜辺 正雄	80
21	平成7年	第21回	勝田 成仁	高橋 浩樹	伊藤 三雄	吉川 住男	105
22	平成8年	第22回	浜口 純一	浜辺 正雄	大平 和輝	後藤 由光	107
23	平成9年	第23回	畑中 政実	柴田 勇	北川 俊秀	伊藤 三雄	103
24	平成10年	第24回	大石 敏男	角 由信	山本 竜彦	村上 武久	110

一 般 女 子 シ ン グ ル ス

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加 人数
1	昭和50年	第1回	田上 幸代	田中 朱美			15
2	昭和51年	第2回	田中 朱美	杉野 早苗			14
3	昭和52年	第3回	梅林真理子	竹内 政美			18
4	昭和53年	第4回	松浦 慶子				8
5	昭和54年	第5回	樋口 京子	海原 恵子	松浦 慶子	鎌形由美子	22
6	昭和55年	第6回	沢田 正子	山口かがり	後藤 寿水	坂 ゆかり	20

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
7	昭和 56 年	第 7 回	宮木 照美	伊藤 暁美	横井ひろみ	寺田 久子	30
8	昭和 57 年	第 8 回	金田充早恵	梅田 明子	大日方和枝	中井美智子	35
9	昭和 58 年	第 9 回	梅田 明子	後藤 美鈴	寅井 千寿	稲垣 典子	21
10	昭和 59 年	第 10 回	梅田 明子	三輪由紀子	梅原 頼子	長野 武子	32
11	昭和 60 年	第 11 回	河本美代子	渡辺 節子	平野 文美	柴田恵美子	26
12	昭和 61 年	第 12 回	梅田 明子	河本美代子	阪 雅子	吉沢 久子	25
13	昭和 62 年	第 13 回	大友 和美	横山 孝子	中村久美子	渡部 裕子	19
14	昭和 63 年	第 14 回	豊田 信子	立石 素子	渡辺 裕子	坂口あずさ	25
15	平成 1 年	第 15 回	別所由美子	湊 敬子	立石 素子	浜辺嘉寿代	5
16	平成 2 年	第 16 回	藤田 純子	加藤 珠紀	菅野 房子	馬場 和美	25
17	平成 3 年	第 17 回	藤田 純子	平野 育子	湊 敬子	伊藤 里美	14
18	平成 4 年	第 18 回	藤田 純子	島村 純子	加藤 典子	平野 育子	27
19	平成 5 年	第 19 回	平見世津子	藤田 純子	田中加代子	後藤智代美	22
20	平成 6 年	第 20 回	杉山 豊子	福島 恵子	村山 淳子	平見世津子	18
21	平成 7 年	第 21 回	中川粹由美	田代 千代	後藤智代美	阪 雅子	19
22	平成 8 年	第 22 回	後藤智代美	田代 千代	堤 さと美	木室 栄子	25
23	平成 9 年	第 23 回	畑中 里美	後藤智代美	矢田恵理子	林 美貴子	34
24	平成 10 年	第 24 回	家城美智子	後藤智代美	島村 純子	小木曾有紀	22

ジュニア男子シングルス

No.	年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
1	昭和 50 年	第 1 回	早川 輝彦	小林 文孝			43
2	昭和 51 年	第 2 回	一木 好永	佐野 収一			48
3	昭和 52 年	第 3 回	豊田 哲也	西岡 範夫			75
4	昭和 53 年	第 4 回	阪 政則	倉田 裕三			64
5	昭和 54 年	第 5 回	志治 良幸	美濃部克哉	峯山 徹也	北山 綱次	61
6	昭和 55 年	第 6 回	水谷 秀樹	下 秀樹	伊藤	塚田 賢一	81
7	昭和 56 年	第 7 回	奥山 睦	塚田 賢一	中山 隆	古市 素行	117
8	昭和 57 年	第 8 回	山田 篤	石川 歩	山本 泰生	野呂 禎也	100
9	昭和 58 年	第 9 回	柿沼 武	渥美 博之	前川 佳昭	松永 信幸	64

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
10	昭和59年	第10回	小林 達矢	野内 憲一	高橋 尚樹	西村 友和	91
11	昭和60年	第11回	井手 信彦	森竹 晃之	石田 英慎	田中 英貴	99
12	昭和61年	第12回	井手 信彦	伊東 宏明	別所 英樹	平田 憲作	109
13	昭和62年	第13回	馬島 貞義	藤田 泉	山本 泰司	早川 一路	95
14	昭和63年	第14回	馬島 貞義	桂 義樹	金山 竹史	竹内 昭雄	95
15	平成1年	第15回	森川 勝文	矢作 達也	簀村 勝俊	鈴木 理雄	114
16	平成2年	第16回	森下 功	清水 邦光	加藤 尚利	深海 広司	151
17	平成3年	第17回	奥野 孝行	加藤 尚利	家田 毅士	西岡 真一	192
18	平成4年	第18回	藤田 智也	北尾 英人	岩間 大輔	信藤 優	200
19	平成5年	第19回	村上 武久	山中 義輝	長尾 佳樹	田中 章雄	182
20	平成6年	第20回	永田 篤史	士岐 直司	小川 雅也	川村 信久	168
21	平成7年	第21回	森 忠久	西村 孝宜	川村 信久	坂倉 孝俊	149
22	平成8年	第22回	駒田 吉宏	中谷 重成	大河原 大	中島 智広	166
23	平成9年	第23回	柳川 豊	岡野 佳典	羽多野裕之	永井 智之	168
24	平成10年	第24回	河合 陽太	田中 俊輝	松下 康平	島村 健人	147

ジュニア女子シングルス

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
1	昭和50年	第1回	川井 嘉子	矢橋 智子			36
2	昭和51年	第2回	田中真佐子	阪 美喜江			46
3	昭和52年	第3回	松浦 慶子	森 千佐子			61
4	昭和53年	第4回	陸 浩子	家令 牧			41
5	昭和54年	第5回	横井ひろみ	村田 京子	金沢 眞弓	山口かがり	64
6	昭和55年	第6回	大友 和美	眞弓美江子	村山 直子	小林 千秋	82
7	昭和56年	第7回	梅田 明子	佐藤久美子	石谷佳誉子	長田 緑	77
8	昭和57年	第8回	今田 貴子	中村 浩子	稲垣 典子	山崎 綾子	134
9	昭和58年	第9回	今田 貴子	長田 緑	佐野 洋子	大和妹津子	105
10	昭和59年	第10回	揚利 裕子	平野 文美	大和妹津子	筒井真奈美	112
11	昭和60年	第11回	木下 豊子	辻井 千織	松橋 典子	田上 弘美	139
12	昭和61年	第12回	安中みちる	古田 睦子	山田千恵子	矢田 純子	101

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加人数
13	昭和 62 年	第 13 回	松谷 直美	別所由美子	九鬼 愛子	河本麻由美	93
14	昭和 63 年	第 14 回	別所由美子	在間 新子	矢橋 礼子	伊藤 明美	112
15	平成 1 年	第 15 回	加藤 珠紀	前川 穂積	谷口枝美子	日高 三恵	114
16	平成 2 年	第 16 回	浅井 裕子	吉川 清美	奥山 里花	田上稚枝己	147
17	平成 3 年	第 17 回	平田由紀絵	中村 恭子	白石 洋子	玉村 京子	168
18	平成 4 年	第 18 回	五家 初音	鏡 千恵	玉村 京子	臼井 貴子	199
19	平成 5 年	第 19 回	佐々木千夏	山田 秀子	伴 美穂	伊藤 英美	163
20	平成 6 年	第 20 回	来宮 雅代	松井久美子	川原 奈美	松島恵梨子	172
21	平成 7 年	第 21 回	松島恵梨子	杉本 香	石垣 愛	豊田 愛	187
22	平成 8 年	第 22 回	伊藤 加代	川口 恵美	小澤佳那子	兼浦 里英	150
23	平成 9 年	第 23 回	小木曾有記	今井 若葉	中西 理恵	鈴木 薫	148
24	平成 10 年	第 24 回	崎久保優子	萩 真理子	永田まい子	堤 祐子	132

中 勢 家 庭 婦 人 ダ ブ ル ス

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加組
4	昭和 53 年	第 4 回	杉田・織田	湯浅・船橋	第 4 回より家庭婦人が追加		26
5	昭和 54 年	第 5 回	菊岡・財田	川村・水原	赤根・小林	後藤・安井	27
6	昭和 55 年	第 6 回	三輪・三角	川村・水原	岡野・古田	後藤・川崎	21
7	昭和 56 年	第 7 回	菊岡・梅本	樋口・湯浅	赤根・小林	田中・内園	32
8	昭和 57 年	第 8 回	田中・和田	西井・川畑	若山・津布久	家城・竹尾	30
9	昭和 58 年	第 9 回	川井・藤村	中田・佐々木	田島・辻ヶ堂	鎌田・谷川原	33
10	昭和 59 年	第 10 回	田島辻ヶ堂	中田・佐々木	小段・等農	鎌田・谷川原	28
11	昭和 60 年	第 11 回	小段・等農	鎌田・谷川原	沼田・藤岡	上杉・平野	29
12	昭和 61 年	第 12 回	吉沢・西山	長崎・菅野	平尾・鈴木	平田・沼田	27
13	昭和 62 年	第 13 回	横山・渡辺	鎌田・谷川原	岡田・田中	松本・長谷川	14
14	昭和 63 年	第 14 回	中村・村中	菅野・井手	中田・中西	平野・梅田	28
15	平成 1 年	第 15 回	小段・平野	平尾・中西	角 ・下野	加藤・今高	12
16	平成 2 年	第 16 回	草川・加藤	井手・河合	福島・山田	浜辺・鈴木	12
17	平成 3 年	第 17 回	大澤・河辺	青木・安本	沼田・島田	山田・戸川	25
18	平成 4 年	第 18 回	山城・浅生	伊藤・谷口	福島・山田	鈴木・戸川	29

No.	年 度	回	優 勝	準優勝	第 3 位	第 3 位	参加組
19	平成 5 年	第 19 回	中西・宝	安本・青木	下里・家城	村田・倉岡	29
20	平成 6 年	第 20 回	杉山・沼田	石塚・奥田	内藤・鈴木	二宮・岩崎	20
21	平成 7 年	第 21 回	山田・本間	石塚・奥田	岩崎・木室	津田・長谷川	19

### ⑧ 会長杯争奪クラブ対抗団体戦

大谷前会長からカップの寄贈をうけ技術向上、親睦、協力を目指しての団体戦です。ダブルス 2、シングルス 3 ポイントで 1 チーム 4 名以上 7 名以内で編成します。予選リーグと決勝トーナメントに分かれており、予選リーグでは参加団体を数ブロックに分けて行います。男女混成チームでもよいのが特徴です。(もちろん女子のみのチームでもよい) また、4 名でチームを編成すると、予選リーグでは単複あわせて 1 人で 6～8 セット分戦わねばならないこともあります。55 年度から B 級が設けられ、さらに 61 年度から女子のみの部が出来ました。ただしこちらは 3 ポイント(単 1、複 2)です。また最近の男子 B 級はダブルス 3、シングルス 2 の 5 ポイント制になっています。

年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参加 チーム
昭和 48 年	第 1 回	三菱モンサント	東 洋 紡			10
昭和 49 年	第 2 回	富 士 電 機 A	鈴鹿高専 A			14
昭和 50 年	第 3 回	三 菱 油 化	鈴鹿高専 A			12
昭和 51 年	第 4 回	富 士 電 機 A	古 河 電 工			11
昭和 52 年	第 5 回	三菱モンサント A	富 士 電 機 A			14
昭和 53 年	第 6 回	三菱モンサント A	藤 倉 電 線			16
昭和 54 年	第 7 回	三菱モンサント A	教 員 ク ラ ブ			17
昭和 55 年	第 8 回	三菱モンサント A	爽 球 会	富 士 電 機 A	鈴鹿エーセス B	A18
		三菱モンサント B	鈴鹿市役所			B 6
昭和 56 年	第 9 回	富 士 電 機 A	亀山クラブ	藤 倉 電 線	教 員 ク ラ ブ	A 6
		日 東 紡	富 士 電 機 B	鈴鹿テニス同好会		B 6
昭和 57 年	第 10 回	三菱モンサント A	三菱モンサント B	藤 倉 電 線 A	富 士 電 機 A	A13
		三菱モンサント	GOGO クラブ	藤 倉 電 線 B	S T C B チーム	B11
昭和 58 年	第 11 回	三菱モンサント A	三菱モンサント B	爽 球 会	富 士 電 機 A	A15

年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参 加 チ ー ム
昭和58年	第11回	富士電機 B	S T C B	りんどうクラブ	GOGOクラブ	B16
昭和59年	第12回	富士電機 A	爽 球 会			A11
		鈴鹿学園 B	三菱モンサント E			B12
昭和60年	第13回	S T C A	富士電機 A			A10
		S T C B	テニス同好会			B20
昭和61年	第14回	鈴鹿市役所	S T C A	富士電機 A	三菱モンサント	A 8
		三菱モンサント B	S T C B	三菱モンサント A	古河電工	B20
		S T C A	S T C B	スポーツセンター	鈴鹿ユニオン A	女10
昭和62年	第15回	鈴鹿市役所	S T C	三菱モンサント	本田技研	A 4
		S T C - A	S T C - B			B20
		S T C	コスミック	スポーツセンター		女12
昭和63年	第16回	三菱モンサント	鈴鹿市役所	S T C	石原産業	A 7
		大日本製菓	三菱モンサント B			B15
		コスミック	アドバンス	ニューハーモニー	チェリー	女 9
平成1年	第17回	石原産業	S T C	M S C	三菱モンサント A	A 9
		S T C	中部電力	GOGOクラブ	古河電工	B22
		コスミック	アドバンス	ベスト T C		女 8
平成2年	第18回	市役所	三菱化成	石原産業	三菱油化	A 8
		本田技研	旭化成	鈴鹿市役所	S F T C	B16
		コスミック(1)	ルネッサンス	ハミング	コスミック (2)	女12
平成3年	第19回	鈴鹿市役所	ルネッサンス TC	ポリテック	本田技研	A 7
		鈴鹿倶楽部	中部電力	GOGOクラブ	ポリテック	B18
		コスミック	ルネッサンス			女11
平成4年	第20回	I S K	ポリテック	クインティ	本田技研	A 8
		オリピック	藤倉電線	ベ ス ト	ポリテック	B24
		コスミック	ロランギャロ	ベ ス ト	ビエルネス	女15
平成5年	第21回	鈴鹿市役所	本田技研	ポリテック	EX-Lスズカ	A 5
		I T O, T C	フジクラ	鈴鹿市役所	I S K	B15
		チャタニング	ルネッサンス	スズカレディース	プレイフェロー	女14

年 度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 3 位	参 加 チ ャ ム
平成 6 年	第 22 回	ロランギァロ	I S K	鈴鹿市役所	I T O . T C	8
		旭化成 (1)	S F T C	旭化成 (2)	I S K (2)	24
		プレイフェロー	S T C	ロランギァロ	鈴鹿レディース	5
平成 7 年	第 23 回	ロランギァロ	I S K	クインティ	本田技研	10
		鈴鹿市役所	N T T (B)	EX-Lスズカ	Y G T C	18
		プレイフェロー	S T C (月)	S T C (昼)	S T C (花)	12
平成 8 年	第 24 回	クインティA	I S K	S T C	鈴鹿高校	8
		フジクラ	東 ソ ー	三菱化学	Y G T C	11
		チャティング	STCひまわり	STCコスモス	鈴鹿レディース	13
平成 9 年	第 25 回	I T O . T C	三菱化学	石薬師高校	鈴鹿市役所	8
		東 ソ ー	三菱化学	GOGOクラブ	D F T	12
		ロランギァロ	S T C (2)	アゼリア	S T C (1)	8
平成 10 年	第 26 回	I O B (1)	東 ソ ー	I O B (2)		8
		トライアングル	D F T	四日市合成(1)		12
		S T C (2)	S T C (1)	ハミング		5

# 県民体育大会を振り返って

第 45～51 回大会監督 伊藤 三雄

県民体育大会に鈴鹿市選手団が参加して数えること 29 回、テニス協会が創設されると同時に参加した大会であり、まさに鈴鹿テニス協会の歩みと同じくして進んで来たといえるでしょう。また、この栄えある大会に出場するには鈴鹿市選手権シングルス（壮年含む）ダブルス両大会が市代表選手を決定する選考会を兼ねた大会であるため選手代表になるにはこの大会で上位に入賞をしなければならないという格付けがされているからです。

この県民体育大会は、ご存知の通り一般男女は 2 D、3 S の 5 ポイント制、壮年男子は 1 D、2 S の 3 ポイント制で勝敗を競う団体戦であるため、普段はライバル同士の選手が急に同じチームメイトとなり他郡市チームと対戦することになるためチームメンバー間のコミュニケーションや雰囲気といったチームワークが非常に大切になってきます。そのため合同練習会を行ったりメンバーに慣れるようにと練習会後にコンパを行ったりと監督、キャプテンは技術面だけでなく精神面にも配慮が必要であり、かなりご苦労があったように思います。また選ばれた選手は、鈴鹿市のトップレベルであり、県民体育大会での結果が鈴鹿市全体のレベルと判断されるプレッシャーの中で、選手一人一人が一生懸命にプレイをし誇りを持って参加をして来た様に思います。また選手のみならず、関係者のご努力とテニスを楽しむ人達の理解と協力、応援により選手が一丸となって参加できた事は、この大会の主旨を十分に全う出来た事と思います。衷心よりお礼申し上げます。全大会を振り返って結果を見てみると、決勝に進進した回数と優勝をした回数は一般男子 5 回（内 1 回優勝）壮年男子 4 回（内 1 回優勝）女子 8 回（内 2 回優勝）と輝かしいものがあります。大会に参加された諸先輩監督、選手、応援して下さい下さった皆さんが築き上げた経験を忘れることなく今後に生かしていきたいと考えています。ここに鈴鹿市の今までの出場者及び順位を別表に表します。残念なことに今年度より県民体育大会は新しいイベントスタイルのみえスポーツフェスティバルに変更が決まっています。しかしながらその一部イベントに郡市対抗トーナメント大会を残す事が決まっています。鈴鹿市の選手団にとって以前にも増して、より一層チームワークとコミュニケーションをはかりながらよい結果が生まれることを期待したいと思います。

## 三重県民体育大会鈴鹿市選手団戦績(1)

回	年度	開催地	鈴鹿市(監督)、選手および順位(最終戦対戦成績)			
			成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
24	45	伊勢市	(浜辺), 伊藤猛, 吉村, 島村, 藪下, 藤牧 参加9郡市 雨天中止	(浜辺), 町谷, 山舖, 角谷 参加5郡市 雨天中止	第24回~第27回 少年種目なし	
25	46	名張市	(浜辺), 石黒, 渡辺, 加藤 1R 0-5伊勢市 9/9	(浜辺), 町谷, 山舖, 鈴木 2R 1-2津市 3/6		
26	47	四日市市	(嶋谷), 浜辺, 前田, 石黒, 藤牧, 平野 1R 2-3松阪市 9/11	(大谷), 町谷, 山舖, 小吹, 宮本 F 1-2四日市市 2/8		
27	48	四日市市	(嶋谷), 浜辺, 石黒, 瀬良, 前田, 六谷, 2R 2-3伊勢市 5/11	(大谷), 小浜, 宮本 2R 0-3安芸郡 5/9		
28	49	四日市市	(嶋谷), 浜辺, 前田, 六谷, 近藤, 吉村, 米田, 米田 F 1-4四日市市 2/13	(大谷), 上川原, 徳留, 橋本 2R 0-3津市 5/9	(石黒), 早川, 玉木, 金森, 分部 1R 1-2松阪市 5/6	(軸丸), 樋口, 七里, 杉野, 川井 F 2-1久居市 1/10
29	50	四日市市	(浜辺), 白水, 伊藤三, 吉村, 米田, 米田 F 1-3四日市市 2/11	(大谷), 田上, 田中 SF 1-2四日市市 3/7	(石黒), 関森, 小林, 分部, 早川 1R 0-2四日市市 5/8	(軸丸), 秋元, 橋本, 杉野, 川井 SF 0-3津市 3/8
30	51	四日市市	(嶋谷), 浜辺, 近藤, 穴原, 渡辺, 藪下, 吉村, 伊藤 SF 2-3松阪市 3/12	(大谷), 杉野, 吉村, 名和 F 0-3四日市市 2/7	(石黒), 小宮, 早川, 小林, 一木 SF 1-2三重郡 3/9	(竹森), 川井, 石渡, 瀬古, 尾崎 SF 1-2伊勢市 3/7
31	52	四日市市	(浜辺), 米田幸, 吉村, 伊藤, 渡辺, 藪下, 米川 SF 1-3四日市市 3/13	(大谷), 杉野, 桜井, 石渡 2R 1-2松阪市 5/9	(米川), 小宮, 伊藤信一木, 葛山 SF 0-3四日市市 3/8	(大杉), 田中, 陸, 梅田, 酒井 1R 0-3四日市市 5/8
32	53	四日市市	(浜辺), 近藤, 伊藤, 米川, 米田, 渡辺 F 1-4四日市市 2/15	(大谷), 吉村, 桜井, 丸橋 2R 0-3松阪市 5/9	(石黒), 村田, 志治, 福田, 高橋 SF 1-2桑名市 3/8	(大杉), 川崎, 梅田, 陸, 近藤 F 1-2四日市市 2/8
33	54	四日市市	(浜辺), 米田, 近藤, 伊藤, 渡辺, 米川 2R 1-4松阪市 5/13	(大谷), 樋口, 平林 雨天中止 SF 1-1津市 1-4/9	(石黒), 志治, 坂本, 高橋, 美濃部 雨天中止 2R 2-1久居市 1-4/9	(大杉), 陸, 梅田, 近藤, 村木 雨天中止 2R 2-1志郡 1-4/8
34	55	津市	(藪下), 近藤, 渡辺, 米田, 伊藤, 栗谷 F 1-4四日市市 2/17	(大谷), 樋口, 平林, 三輪 F 1-2四日市市 2/9	(石黒), 志治, 須山, 杉谷, 美濃部 F 0-3四日市市 2/10	(浜辺), 梅田, 大友, 村木, 別府 SF 0-2桑名市 3/10
35	56	伊勢市	(浜辺), 近藤, 渡辺, 米田, 長田, 浜西 F 3-0松阪市 1/20	(大谷), 樋口, 平林, 三輪, 古田 F 0-2四日市市 2/12	(石黒), 須山, 近藤, 水谷, 下 F 3-0津市 1/10	(大杉), 梅田, 大友, 村木, 別府, 宇井, 石谷 F 2-1四日市市 1/10
36	57	紀伊長島町	(藪下), 米田, 村田, 伊藤, 浜西, 渡辺, 長田, 甲斐 SF 0-3四日市市 3/20	(大谷), 三輪, 大日方 SF 0-2四日市市 3/10	第36回~第37回 少年種目なし	
37	58	名張市	(藪下), 渡辺, 米田, 伊藤, 長田, 浜西, 村田, 米川 SF 0-5四日市市 10/2	(大谷), 三輪, 大日方, 梅田, 梅原 2R 1-2四日市市 10/1		

### 三重県民体育大会鈴鹿市選手団戦績(2)

回	年度	開催地	鈴鹿市(監督)、選手および順位(最終戦対戦成績)		
			成年男子	成年女子	成年二部
38	59	四日市市	(荻下), 渡辺, 伊藤, 浜西, 甲斐, 北川, 長田, 井口 2R 2-3 四日市市10/27	(大谷), 三輪, 梅田, 梅原, 村木 F 1-2 四日市市	
39	60	津市 久居市	(荻下), 伊藤, 山崎, 北川, 長田, 井口, 米川, 浜西, 浜辺, 粟谷 雨天中止	(大谷), 梅田, 梅原, 村木, 大角 雨天中止	第40回より40才以上 (成年二部始まる)
40	61	紀伊 長島町	(荻下), 伊藤, 山崎, 北川, 井口, 浜西, 勝田, 渡辺 3R 0-3 四日市市10/26	(大谷), 梅田, 梅原, 大友, 大角 SF 0-2 桑名市	浜辺, 山中 3R 0-2 四日市市
41	62	四日市市	(荻下), 北川, 伊藤, 山崎, 浜西, 大石, 勝田, 長田 雨天中止	(大谷), 河本, 中西, 大友, 梅田, 梅原 雨天中止	井口, 山中 雨天中止
42	63	名張市	(荻下), 伊藤, 北川, 大石, 勝田, 杉山 3R 0-3 三重郡 10/29	(大谷), 梅原, 豊田, 野田, 坂口, 浅田 2R 0-3 四日市市	井口, 鈴木, 荻下 SF 0-2 桑名市
43	H 1	紀伊 長島町	(荻下), 大石, 伊藤, 杉山, 山田, 勝田, 渡辺 2R 0-5 四日市市10/28	(河本), 梅原, 梅田, 出岡, 豊田 F 2-1 桑名市	山中, 井口, 北川 3R 0-2 桑名市
44	2	鈴鹿市	(荻下), 伊藤, 大石, 浜西, 谷口, 勝田, 高橋, 杉山 雨天中止 2R 3-1 熊野市 10/6	(河本), 梅田, 梅原, 大友, 湊, 出岡 2R 2-0 名張市 雨天中止	井口, 北川 2R 2-0 熊野市 雨天中止
45	3	一志郡	(伊藤), 大石, 井上, 勝田, 高橋, 森川, 杉山 2R 1-3 三重郡 10/26	(河本), 後藤, 梅原, 梅田, 出岡 2R 2-0 伊勢市 雨天中止	井口, 北川 1R 3-0 名張市 雨天中止
46	4	度会郡	(伊藤), 大石, 北川, 林, 井上, 勝田 3R 0-3 四日市市10/25	(河本), 梅原, 梅田, 出岡, 藤田 SF 2-0 伊勢市 日没中止	第46回より成年二部 45才以上に変更 井口, 藤沢 3R 1-2 四日市市
47	5	名張市 上野市	(伊藤), 大石, 井上, 長田, 勝田, 林, 奥野 3R 2-3 桑名市 10/2	(河本), 梅原, 梅田 出岡, 藤田, 平見 F 一四日市市 雨天中止	井口, 北川 F 0-2 四日市市

### 三重県民体育大会鈴鹿市選手団戦績(3)

回	年度	開催地	鈴鹿市(監督)、選手および順位(最終戦対戦成績)		
			成年男子	成年女子	成年二部
48	6	紀伊町 長島町	(伊藤), 大石, 浜西 勝田, 林, 山本 SF2-3 名張市 10/2	(河本), 梅原, 梅田 藤田, 栗原, 河本麻 F 3-1 四日市市	井口, 北川, 藪下 F 0-2 桑名市
49	7	桑名市	(伊藤), 大石, 後藤 清水, 林, 森下, 瀬古 3R2-3 名張市 9/30	(河本), 藤田, 梅原 梅田, 栗原, 平見, 河本麻 SF 2-3 桑名市	井口, 北川 F 2-1 四日市市
50	8	名張市 上野市	(伊藤), 大石, 勝田 後藤, 林, 山本, 森下 1R1-4 桑名市 10/26	(河本), 梅原, 梅田 藤田, 平見, 河本麻 SF 1-3 桑名市	井口, 北川 SF 0-2 桑名市
51	9	鈴鹿市	(伊藤), 勝田, 後藤 林, 瀬古, 吉川, 山本 2R2-3 津市 10/4	(河本), 梅原, 藤田 平見, 田島, 河本麻, 貞光 SF 0-3 桑名市	井口, 北川 SF 0-2 四日市市
52	10	鈴鹿市	(勝田), 大石, 山本 後藤, 林, 清水, 森川 SF0-3 名張市 10/3	(河本) 梅原, 藤田 平見, 田島, 矢田, 田代 3R 1-3 四日市市	井口, 北川, 長田 F 0-2 四日市市

# 30周年記念事業

記念式展 平成11年11月28日(日)  
ホテルグリーンパーク 鈴鹿

記念テニス大会 平成11年12月4日(土)  
県営スズカスポーツガーデン

## 30周年記念事業実行委員会

実行委員長 伊藤 三雄

式典委員会 勝田 成仁 川出 喜則 河本美代子

大会委員会 大石 敏男 井口 健 豊田 敬一

大杉 順

記念誌委員会 伊藤 三雄 浜辺 昭雄 中西 利雄

貞光 京子

## <各実行委員会より>

### ◆式典委員会

鈴鹿テニス協会発足30周年を祝し、11月28日(日)ホテルグリーンパーク鈴鹿において、記念式典と記念パーティーを開催します。

式典では、長年に渡り協会に尽力された個人及び団体を表彰し、パーティーでは協会会員の友好と交流を図るとともに21世紀に向けてさらなる飛躍を期します。

### ◆大会委員会

本年、鈴鹿テニス協会が30周年を迎えることで、昨年より記念事業をやろうという事になり、記念テニス大会のための委員会を設け、記念事業開催に向けて活動を行ってきました。10、11月と県営鈴鹿スポーツガーデンの予約が一杯で、寒い時期ではありませんが12月4日(予備日12月5日)に決めさせて頂きました。『誰もが一日楽しく過ごせる大会』をテーマに、各委員会が意見を出し合い、又一般のテニスサークルにも意見を聞きながら、記念大会開催に向け取り組んで来ました。初心者から上級者までが一つのチームとなり、上級者と中級者がペアを組む男女別のダブルス、鈴鹿主催の大会では見られないミックスダブルス、又初級者同士によるダブルス等準備しています。イベント会場では、スポーツメーカー5社協賛によるラケットの試打会、展示即売会、賞品獲得ゲームを予定しています。

この記念大会を期に、テニス愛好者が増えテニス協会発展に役立てれば幸いに思います。

### ◆記念誌委員会

記念誌発行委員という大役を、我がチーム4名が受け持つ事になり、何からしているのか途方にくれておりました。が、とにかくやらなければと各委員の会合を数回持ち、あれこれと模索しながら何とか発行にこぎつけました。この記念誌が協会の発展に少しでもお役に立てれば幸いと思っております。

# 編 集 後 記

鈴鹿テニス協会発足30周年にあたり過去の歩みを纏め協会の発展に御尽力いただいた方々の思いを忌憚なく語ってもらい、今後、より一層の発展を願う記念誌発行に注力しました。

この記念誌発行にあたり、依頼原稿に協力していただいた方々にお礼を申し上げますと共に、協賛各位の御協力に感謝申し上げます。



## 鈴鹿テニス協会30周年記念誌

発行日 1999年11月28日

発行人 鈴鹿テニス協会

〒513 0801 鈴鹿市神戸三丁目7-13

TEL・FAX<0593>82-2562

会長 中川正春

理事長 伊藤三雄

印刷所 杉野印刷所

## 協 賛 広 告

鈴鹿テニス協会創立30周年記念誌には、次の各社より広告の掲載を頂きました。  
感謝申し上げます。

(掲載順)

鈴鹿回生総合病院  
鈴鹿サーキット  
スズカテニスクラブ  
(株)トピア  
ひろせ胃腸科外科  
(株)荻野建設  
トリックス(株)  
(株)大栄管清土木  
スピックサロン  
学校法人享栄学園  
長瀬内科  
留奥内科  
山根動物医院  
三重グリーンテニスクラブ  
伊藤印刷(株)  
ハヤシ住宅設備(株)  
(株)システム開発  
ドリームオート  
カタログブテックOZ  
ヤマコ物産  
ASA白子(朝日新聞)  
三重ヤクルト販売(株)  
(有)北野米菓  
とり焼 煙家  
化粧品のみじや  
服部塗装  
富士ライフ(株)  
petit cafe日曜日  
玉木塾・教育企画  
ナガノスポーツ店  
サンキャビン

ヨネックス(株)  
椿会館  
(株)鈴浄会  
(株)南条製作所  
(株)ゼロベース  
(株)近藤工務店  
(株)鈴友  
美容室MOZ  
おしゃれ泥棒  
焼き肉の美寿々  
駒田医院  
伊東眼科  
ないとう接骨院  
(株)スポージアム鈴鹿店  
三交旅行(株)  
(株)飯田鉄工  
扇立電気(株)  
日動火災海上保険(株)  
アコソ総合センター  
彩電館ちかざわ  
(有)太洋産業  
松屋商店  
焼肉 トラジ苑  
浪花でおます  
アートカメラ  
サブリ薬局・化粧品  
上杉建設サービス(株)  
スタック マスコット  
花キュー~ピット花真  
(有)炭焼珈琲オリジナル  
(株)みそのクリーニング

(株)ダンロップスポーツ  
東海税理士会鈴鹿支店  
尾池整形外科  
マルヨシ  
日進建設(株)  
近藤住宅(株)  
(株)水谷工業  
美容室てーたーてーと  
原石油(株)  
スシラウンジパルフェ  
北條歯科医院  
楠原漢方院  
(株)エスピーテンボーイ  
THE SPORTS AUTHORITY  
(有)アスカプランニング  
三善工業(有)  
オートテラス鈴鹿東  
(有)三光建設・リース  
サントピアホーム  
(有)嶋コーポレーション  
北三重運送(有)  
桐生ふあ~む  
焼肉 山麓  
味処 めし亭  
タチ治療院  
(有)ボディー・クラブ  
山本胃腸科・内科・外科  
(有)鈴鹿薬局  
白子クリニック  
かいげ動物病院

以上